

潮吹き放尿連続射精！無垢な少年を  
巨乳お姉様達が逆レイプ蹂躞陵辱！！

少年配管工と  
われの淫乱姫君

人

おねシヨタメイン  
シヨタ受CG集



「ここは茸王国。若くして配管工として働いている少年の元へ、慌てた様子のキノピオが訪れこう言った。『突然お城に亀の魔王が現れ、姫を攫ってしまいました!』」

「こうしちゃいられない、すぐ助けにいかなくちや! 姫様、待っててください!」

「この国を治める姫の一大事に、少年はすぐさま冒険へと旅立ったのだ!」

「なんだって? それは大変だ!」

# ☆簡単な人物紹介



クリボー  
オナニー  
モンスタ  
では一  
バランス  
スタイル



マリオ  
主人のツ  
姐様を救  
ま精進・  
ちよとM  
気味?



ノコノコ (姉)  
双子の姉  
双子の姉  
兄か  
兄か  
兄か  
兄か  
兄か  
兄か  
兄か

ノコノコ (妹)  
双子の姉  
いつも姉に  
ヒコを構っ  
のでいつも  
気持す!!!  
こと大姉



# ☆簡単な人物紹介



♀ハンマーブロス  
対拳をハンマーで  
気絶させてから  
実験するのが趣味。  
認らせていたのが好き。



♂クッパ  
娘を搾った魔王。  
巨根。  
顔は出てこない。



♀ピーチ姫  
搾られた草王国の姫。  
クッパ城の奥深くに  
閉じ込められていた  
らしいが…？

vs.クリボー



これから始まる冒険へと身を躍らせた少年だったが、次々に襲いかかってくるモンスターにあえなく捕まってしまうた。雌のクリボーは少年を地面の上に押し倒し、拘束するとすぐ短パンのベルトに手をかけその未熟な性器を取り出す。少年は当然必死に抵抗した。排泄以外では使わないはずのそこを、執拗に手のひらで擦ってくる女に驚きを隠せない。少年は性を知らなかつたのだ。女の手で握ってしまえばすつぽり隠れてしまうほど小さなペニスは、ふにやりと柔らかく何の反応も見せない。

う、うわあつ！  
やだ、モンスターめ、  
放せ！何するんだ変態っ

こらあ、暴れないの！  
変態って言わないでよお、  
アンタみたいに城へ向かって  
いく奴を足止めするのが  
あたしの仕事なんだからあ：  
恨むんならあたしにぶつかった  
自分を恨みなさい

それにあんまり暴れると…  
手が滑って潰しちゃうわよ？  
このちっこいチンポ。

いひっ…  
いや…あ

しかし一擦り、二擦りする間に、少年は握られたペニスを違和感を覚えた。芯の部分に熱が灯ったような気がしたのだ。



数分間、そんなことを繰り返していると、少年のペニスのはしつかりと固くなり、鈴口からは透明な液体が滴り落ちてきた。意識がペニスに集中し、それと同時に後頭部へ押し付けられている女の柔らかな膨らみが妙に気になつてきてしまった。身体が熱い。それは少年が初めて覚えた、少年は無理矢理に欲を引きずり出されようとしていた。少年は恐怖を覚えた。熱を持ち、まるで生き物のようにピクピクと震え汗を漏らす自身のペニスが怖くてたまらなかつた。それに加え、覚えのある感覚が少年を襲い始めていた。少年はペニスの違和感を尿意だと結論づけた、実際それは尿意を限界まで我慢している時とよく似ていた。少年に羞恥心が走る。女性の掛ける、しかも手の中で小便を漏らすなんて——例えそれが彼女から仕掛けてきた行為だとしても、少年は恥ずかしくて仕方がなかつた。



はあ？おしっこお？？こんなに固くなつてるのに？勃起してるときって出しにくいんじやなかつたかなあ……あたしもオナニーしてるときって出ないし……まあいいや、おしっこでもザーメンでも何でも良いから早く出しちやいなさいよ、ほらほらあ

おひ……っお、しっこ……でちやう、からあ……！やだあつ、放してえ！

やあ……だめっこそすつちや、あ、やだやだ、あ、あつ！

少年は何とか我慢しようとしてみた、が、若い身体は突然訪れた性の波に抗えるはずもなく、限界はすぐそこまで押し迫つていた。顔が赤く染まり、頭がぼうつとしてくる。何も考えられない。ただただペニスから這い出ようとするとする熱を逃したくて、仕方がなかつた。

びくびくびく、とペニスが勢い良く跳ねる。少年にとってそれは、十分にも二十分にも感じられる程長いことだったが、実際は我慢しよ  
うと決意してからもの数秒でペニスから液体を吐き出していた。し  
かし、おしゅつと鈴口から出たものは、少年が思っていた小便でも、  
女が考えていた白い精液でもなかった。透明だったのだ。  
今日ここにきて初めて性を感じとつた少年は、しかし当然の如く身  
体の準備が出来ていなかった。



射精とも呼べないそれは、それでも少年にとって初めて達したオー  
ガズムで、頭が焼き切れるほどの衝撃に身体を痙攣させることしかで  
きなかった。柔肌からは汗が滲み、そしてペニスからぼたぼたと雫が  
滴り落ちて、地面に染みを作って行く。



少年がまだ精通していないことを悟ると女はニヤツと笑い、舌なめずりをした。そう、そうか、腕の中で震えている彼は、まだ自慰も知らない、ましてや精液を吐き出したことすらもない無垢で純粋な少年なのだ。彼女は一気に雌の顔を覗かせた。汚れを知らない少年に、欲を覚えさせることへの期待、背徳感、そして目の前で精通の瞬間が見られるかもしれないという、常では有り得ないそのシチュエーションに、女は下腹がじんと甘く疼いたのを感じた。

…へえー。アンタ、まだ精通してないんだ？このちっちゃいチンポから、ザーメン出したこと、ないのね？あれえ、もしかしてイッたのも初めて？ふふっ、気持ちよすぎて頭ぼーつとしちゃってる？

あ、あ……はー、はあー……ごめ……なさ……おしっこ……おもらし……しちやった……

うふふ、おしっこだと思ってるのね。良いわあ、うぶでカワイイじゃない！ね、あたしがこのじゃらしないチンポ、大人にさせただらしない♡おんぽ、なりかけよ、もっ♡気持ち良いわよ、白くてドロッドロのザーメン、びゅっびゅしちやうの……♡

はあ……あ、さーめ……？

握り込んだペニスはまだ敏感で、体質だろうか、それとも精通前は皆こうなるのだろうか、ぼたぼたと止めどなく透明な液体を零していた。軽く擦ると、面白いくらいに少年の身体がびくびくと痙攣するのを感じて、このままペニスを刺激し続けたらどうなるだろうと、悪戯を仕掛ける子供のように女は期待に胸踊らせるのだった。

……数十分後……

空間にぬちゆぬちゆと濡れた音が鳴り響く。激しく上下にペニスを扱く女性の手は、少年の性器から溢れ出る液体で完全に濡れそぼっていた。断続的にペニスから吐き出されるその液体は、もはや先走りなのか、それともオーガズムと共に吐き出される精液未満の透明な液体なのか、さえ分からなかった。オーガズムを覚えたばかりの幼い身体は敏感で、もう何度達したのだろう。地面に広がる透明な水たまりが少年の快感を如実に表している。

ふふっ、だあめ♡  
今びゅっびゅしてる透明の  
さらっとしたやつじやなくてえ、  
白くてねばってるエロ汁出すまで  
離してあげない♡

うあつ、や、もうやら…っ!  
おちんちんもうやらっあ、あ、  
また、またきひやうっおしっこ、  
くるじいほうのおひっこきひや…

あはっ♡  
またイッてるう♡

息も絶え絶えになりつつ、その手から与えられる強過ぎる快楽に少年は頭がおかしくなりそうになる。彼にはこの女が一体何をしているのか、そんなことを考える余裕さえ残されていなかった。擦り続けられたペニスは痛いくらいだった。それは固さを失うことなく幾度目の絶頂を迎えた。



それから、少し。散々出した先走りも、液体も、もう何も残さ  
れない。もう何も吐き出せるものがない、そんなときだった。全身  
に電流が走ったような感覚、腰がガクガクと震え、今までは比喩物  
にならない質量のある液体が、狭い隙間を押し広げながら通つていく  
のを感じた。目の前が真っ白になり、声にならない声をあげ、気付く  
と少年は絶頂していた。

わっ♡ザーメンであー！♡  
どうどう？初めての射精きもちいい？  
ふふっ、声にならないくらいスゴいのね。  
甘ったるい声出しながらあんなに  
イッてたのに、まだ沢山出てる♡

じゃあ、精通してちよっぴり  
大人になったことだし、お姉さんと  
もっとなんかいいことしよっつか♡

びゆくびゆく、今まで自らが放った透明な液体の水たまりに、白  
くどろっとした液体を放つ。その瞬間、少年の全神経がペニスに集約  
されていった。脳髓が甘く痺れ全身にまで響き渡り、少年は精通を迎え  
たのだった。





うふふ：ほら、ここ見てえ♡  
 アンタの精通見ながら、あたしの  
 おまんこもトロトロなの：♡  
 クリちゃんもチンポみたいにお  
 おっきくなつちやつてるのお♡

ねえ、早くその  
 精通したて敏感チンポ♡  
 ここにイれて、ザーメン  
 沢山どびゅどびゅしてえ♡♡

た。女がぱかりと足を開くと、むわつと独特の匂いがあたりをたちこめ  
 だ。クリトリスは上向きにピンと張り、秘部がひくひくと動くたびに  
 だらだらとはしたなく愛液が漏れ、女のどうしようもない興奮が伺え  
 た。いちの間に破ったのだから、大きな乳房を露にして、ぷつぷつと  
 立ち上がった薄紅色の乳首をくりくりと自分で弄りまわしている。  
 て。女が卑猥な言葉で少年を誘う。匂い、仕草、赤く熟れたその身体全  
 が雄を求め、少年の熱をより昂らして収縮を繰り返す。見たこともない  
 ゴクリと喉を鳴らす。液体を垂らし、女性の陰部を見るのは初めてで、自  
 形をしたそこから目が離せない。女の言葉はあまりよく理解できな  
 い。先程精通を迎えたばかりの頭はぼうつとして使い物にならなかつ  
 た。誘われるままにフラフラと、少年は女に近付いていった。

少年は勢い良くその豊富な肉体へ飛び込んだ。胸に頭を埋めると少年の骨張った身体とは違う、女性特有の柔らかさを直に感じとることができた。ふわふわだ。顔をあげ、今度は恐る恐る乳房へ手を這わせ、少力力を込めると驚く程簡単に手をのみこんだ。少年は本能のままに乳房を揉みだきはじめ、無意識にカクカクと腰を動かし必死に女の秘部へペニスを擦りつけている。しとどに濡れた媚肉は熱くたまらない快感が少年を襲った。少年は腰をさげてみるが、ペニスから漏らす先走り、女性の愛液のせいで滑ってうまくいかない。少年が快感と焦燥感で泣きそうになつてると、突然あの白い液体が出てきたときと同じ切羽詰まったような衝動を覚えた。

あつ、はあつひうう、はつ  
お、おちんちんっここに……  
くちゅくちゅしたい、あ、あ、  
あ、ひああつあつ、くちゅくちゅ  
とまらないのお……あ、あひつ

あん♡おまんこにチンポ挿入れたくて  
仕方ないのね、勝手におっぱい  
もみもみして、童貞のくせになあんで  
イヤらしい♡ほらあ、もつと  
頑張つて♡もう少し下じゃないと  
おまんこの中に入らないわよ♡

あ、はああ、あ、んああ、  
う、ひ……つしたつ入らな……  
おちんちん入らない、ひくつ  
おちんちん？おちんちん、  
あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
あ、あ、あ、あ、あ、あ、





クリトリスとペニスを兜合わせのように卑猥な音を出しながら擦り付けた少年は、あつというまにガクガクと腰を震わせながら達してしまった。びゆくびゆくと溢れ出る精液は勢い良く女の秘部にぶちまけられ、じんわりとその熱さが広がっていく。少年は精一杯の力で女にしがみつき、その快感の波に必死で耐えた。心臓がどくどくと脈を打ち、息苦しいほどだ。全身が痺れたように動けない。身体とは裏腹に、しかし、未だ慣れるはずもない。快樂に気怠く沈む身体とは裏腹に、柔らかい肉に抱かれ精を放つと、少年は今まで感じたことのない幸福感到に包まれた。

年はハツと正氣を取り戻した。気が付けば思考を支配していたペニスへの自  
 のもどかしさはなくなっていたが、その代わりにペニスと女の股が混  
 分の出した白い液体でべとべとになつてしまつた。羞恥心と衝撃に頭が混  
 乱して、ついにはぐすぐすと泣きだしてしまつた。少年は自分の出し  
 た液体で、敵とはいえず、女性の大事などころを汚してしまつたことに  
 対して酷く罪悪感を覚えたようだった。しかし無意識だろう。熱に浮  
 少年は泣きながら謝罪を繰り返すが、勃起のおさまらないペニスを精  
 かされたような顔で再びぐりぐりと勃起のおさまらないペニスを精  
 液に濡れた女の秘部に押し付けはじめた。射精時の勢いはないものの  
 少年のペニスはびゅ、びゅと尿道に絞った精液を絞り出すように漏ら  
 だ。女はそんな少年を優しく諭し、慈しむように頭を撫でる。

はあ、あ、はあ... ひっく... ひっく...  
 ひっく、ぼく、ぼく、わからなくて！  
 へ、変なきぶんになつて、おねえさんの... おまたにおちんちん  
 押し付けたくなつて...

ひっく、おちんちん動かすの  
 止まらなくなつて、そしたら  
 白いおしっこお漏らししちゃつて、  
 ひっく、えぐっ、おまた汚しちゃつて、  
 ごめ、ごめ、ごめんなき...

うん、うん♡そおなのお、おちんちん  
 気持ちよくなつて止められなくなつちん  
 やつたのねえ。そつかあ、チンポでおは  
 またくちゅくちゅするの好きなんだ♡  
 大丈夫よお、何も間違つてないの♡

はあ、はあ、はあ...  
 ごめ、な... ああ... ああ...

あん♡もう、そんなにチンポぐりぐりしたら  
 またザーメンびゅっびゅっちやうよお？  
 ほらあ、落ち着いて、ゆっくりで良いから  
 チンポを下にずらして、今度はあたしの  
 おまんこのナカで、激しくチンポじゅぼじゅぼ  
 して、イッパイどびゅどびゅして...♡♡



少年はぼやける意識の中で、女に言われた通り、腰をゆつくりと下  
 げると、待ちわびたようにヒクヒクと震えるその媚肉の中へとペニス  
 がのみ込まれていくのを感じた。蜜壺の中はヌルヌルと愛液で溢れか  
 えり、うねりながらペニスをきゆうきゆうと締め付けてくる。少年と  
 の密儀で充分に濡れ柔らかくなつたそこは既にふやけきつている。そ  
 んな女の官能的な蜜壺も、先程精通を終え、当然秘部への挿入も正真  
 正銘初めて体験する少年は、その熱にただただ圧倒されるばかりだ。  
 ペニスに絡み付いてくる熱さに、まるでそこだけが柔らかな炎に包  
 まれているかのような錯覚に陥る。

ヤダア、この子のチンポ本当に  
 ちつちやい！ぶふっ！指一本  
 入れているのと変わんないよお？  
 こんなんじや中出ししても子宮まで  
 届かないんじやん？あつても、すっごい  
 気持ちよさそおな顔してる。かっわいー！  
 仕方ないなあ、童貞喪失記念に思う  
 存分ずぼずぼさせてあげよつと♡

あ、した、はあ、あ...っ  
 あ...っ？あ、ふああ...っ♡  
 お、おちんちんっ！おちんちん  
 あつ...っ！すいこまれるっ♡  
 あ、ひあうっ！あつああ...っ♡

んふ♡童貞喪失だね♡おまんこの  
 ナカきもちい？あたしの身体  
 好きにしたいんだよ♡好きだけ  
 そのガチガチのチンポじゅぼじゅぼ  
 して、びゅっびゅするのよ♡

ん...♡そうそう、上手ね♡

ああ...っ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ...っ♡  
 ああ...っ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ...っ♡  
 ああ...っ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ...っ♡  
 ああ...っ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ...っ♡  
 ああ...っ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ...っ♡  
 ああ...っ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ...っ♡  
 ああ...っ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ...っ♡









どぶつ、どぶつと爆発するように少年から放たれた精液が女の子宮を満たし、少年からも多くの精液を送り込むかのようになり、ぐぐぐと少年の腰が沈んでいく。待ち望んでいた子宮に叩き付けられる精液の感触に女はビクビクとその肢体を震わせてあっけなく絶頂してしまつた。

初な少年に母性本能を刺激され、半ば母のようになつて暖かく少年の性的な手解きをして喜びが女だつたが、その瞬間、雌としての喜びが隣内射精に腰が抜けるほどの快感を味わい、未だ射精を止めることのできないでいる目の前の少年の熱を、子宮で感じると、凄まじいオーガズムの波が彼女を襲つた。



数十分後…

どれほどの射精を繰り返したのだろうか。拙い性を無理矢理放された少年の隙間は、液は留まる所を知らなかった。一滴の間、もなほ子宮に精液を注ぎ込まれた女は、理性の糸をとうに焼き切っていた。甘つたる嬌声をあげ、少年がぐちゅと突きすたに、身を搾りながら、腰を上げて連続で射精しつづけた。少年は、腰を上げてペニスを押し込めるその動作さえ、体力も残されていなく、たつた。そのため、突きといてもくたつた。彼女はそのための快感に繋がるようだった。彼女はそれだけでも

あ…あ…は、ひ…なんで…  
こんな、あ♡ひ、子宮いつぱいになるまで…中出し、されちやつたあ…♡  
あひ、も…絶対あかひちゃんできちやつてるよお…♡♡

は…は…は…あ…あ…  
は…は…は…あ…あ…

はひつ…や、や、  
動かないでえ…♡また、  
またイツちやうから、  
あつおねが、も…あ、  
あ…♡♡

あつ、ああつ…こ…  
こんな極小チンポに…  
ざーめんでイカされちやう  
なんてえ…♡ひついいい♡

は…は…は…  
は…は…は…

は…は…は…  
は…は…は…



人間の声とは思えない程のあられもない、  
獣のような声をあげながら二人は更に達しない、  
けた。性の目覚めと経験したことができない快樂  
少年は、もう何も考えることができなくな  
つていた。何しろ全てが、彼にとつては初め  
てのことだったのだ。

vs. ノコノコ



野を越え山を越え、草むらを進んでいたところ、突然少年の背後から何か硬いものが飛んできて、ドンとぶつかってきた。少年が何事だと目を開けると、青緑色の髪をしたモンスターが己の身体の上に乗っかって見えた。緑色の女はすぐさま少年の短パンを脱がせると、自らもはいていたパンツをずらし陰部を露にした。少年は何が起きたのかわからず、ただ自分の性器がつぶと女の股にのみ込まれいく様を見ていることしかできなかった。

えへへ、やつと捕まえました♡  
何度も避けられるから私、とつても焦らされちゃうたんですよ。さあ、お洋服脱いで、可愛いおちんぽ出してくださいな♡♡♡  
可愛いわあ♡♡♡  
思ってた通り小さくてとっても可愛らしいです♡♡♡

え、？うっ  
うわ、なに…っ！

あらあら、こんなに混乱しているのに、おちんぽは勃起してますね♡  
うふふ、えっちなモンスターたちと戦いながら勃起させてたんですか？  
それとも私のおっぱい見て興奮しちゃったんですか？  
どちらにしても変態さんですね♡♡  
変態さんにはお仕置きですよ♡♡♡

ひ…っ！や、  
やだあ…っ！



草の青臭い匂いと汗の匂いが立ちこめる。  
上に跨がり、肉がぶつかり合うほど激しく腰を振り下ろしながら、女は微笑んだ。所謂騎乗位の体勢で、女は下乳を腕で固定しながらも、豊満な両の乳房はその質量に抑えきれずぶるんと少年の頭上を揺れ動いている。女の中は締めまりがよく、吸い付くように少年のペニスを包み込み、膣の中で混ざり合っただけで、それは女の愛液と少年の先走り、膣へと突き入れる度にぐちゅ、ぐちゅと淫猥な響きをもつて少年の耳に届けられた。

ふ、ふっ♡凄いですねえ、君のおちんぼがツチガチです♡  
カウパーが私のおまんこの中でびゅつびゅつしているのが分かりますよ♡  
犯されて感じてるんですね♡♡

うふふっ、本当にやめてほしんですか？  
おちんぼはとつても素直に気持ちいい♡  
もつとしてお汁零してののいい♡  
あ、今またカウパー溢れましたよ♡  
もしかしてもうイきそうですか？  
私のおまんこで射精して、子宮にザーメンぶちまけて君の赤ちゃんを孕ませるつもりなんですか？  
我慢できない悪い子ですね♡

あっあ…っ！やめてっ  
やめてよおっ！おちんちん  
ビクビクするのっ  
じゅぼじゅぼしないですっ！

やめ、あ、あ、あ、  
おちんちんがっ  
あ、あ、あ…っ！

少年は拒絶の言葉を吐きながら、自身のペニスと女の蜜壺が結合している様から目を離すことができなかつた。汗が噴き出し、上半身に着たまの服が肌にへばりつく。反対に下半身は何もつけていないが、その中心のペニスだけは体中のどこよりも熱く火照り、そして熱さだけではない。快樂のうねりが全身を駆け巡っていた。  
限界に近い。身体の奥からこみ上げてくるものを悟り、少年がたまらず声をあげ叫びわめこうかと言うとき――

や、一体何が起こったというのか。どすん！と少年の頭に衝撃が走るやいなや、彼は後頭部を強かに打ち付けた。途端、むわつとした汗と性の匂いが鼻孔に直接押し当てられ、それを自覚した途端に少年は射精していた。ペニスと頬張っていた女の蜜壺は脈打ち注ぎ込まれる精液を逃すまいとごくごく嘔下していき、それでも重力に逆らえずゴボリという音を立ててこぼれ落ちる。少年の臍まで濡らしていき、下半身を露にした女の陰部射精を終えた少年は、頭の上にあるそれが、下半身を露にした女の陰部だということに気がついた。クリトリスを少年の鼻に乗せ、そして開いた口には陰部がべつたりとくっつけられている。顔面に女の秘部を押し付けられているという異常な事態に少年は混乱を極めていたが、蜜壺の中で震える性器はびくびくと騒ぎ、一度精を放ったとは思えない程に再び勃起していた。

あーっ！ちよつとお、何一人で楽しそうなおことやってんのよっ

あつ！姉さん！あーあ、見つかっちゃいました。だつて、獲物を捕まえたらいつとも先に姉さんが食べちゃうじゃないですわ。私だつてたまには初物味わいたいです！

え？そうなの？なーんだ、言ってくれたらアタシだつてあんたに譲つたのに。

ムクムクムク

前にも言ったけど、姉さん興奮しちゃって結局私がお下がりでだつたじゃないですか！射精しちゃいました。せつかく私が童貞貫つたのに、姉さんに負けた気分です。





姉妹関係にあるらしい二人のモンスタースタイルは、少年の変化を知るとニヤリと不適な笑みを浮かべた。緑色の女が緩やかに腰を揺さぶりはじめ、再び少年のペニスを刺激する。少年は再び襲ってくる快樂の渦と、乗せられて肉の重みに息苦しさを感ずる。自然と鼻息が荒くなるのを感じた。その上、顔全体に陰部を押し当てられ、ちようど蜜壺の入り口付近に位置する少年の口の中が何だか湿り気を帯びてきた。遂にはねちやりとしたものが溢れ、少年はごくりとそれを飲み込んだ。次に次から次へと陰部から溢れ出してくるその液体を少年は必死で飲み込む。そのうちじわじわと脳髓をくすぐるような甘い匂いが立ちこめてきて、桃色の女が感じて隠しきれない興奮を少年はその口と鼻で理解した。

へえ：顔面騎乗で射精しちゃったんだあ。何この少年、マゾなの？顔にマンコ押し付けられて気持ちよくなつちやうなんてやらしーわあ♡

そういうことなら、ほら、ぐりぐりしてあげるからお望み通り口でマンコしやぶりなさいよ。こういうのが良いんでしょ？

ん：あは♡うわあ、射精したばかりなのにもうおちんぼ硬くなりました♡私のおまんこを擦る度、姉さんのおまんこをちゅばちゅばする度に硬くなって…♡あつ、あ♡すごおおい♡

んふ♡そんなにピンピンに勃起してるの？ムレムレマンコの下と上で味わって感じまくつてるのね♡この変態！ほらつ、いやらしい変態マゾ野郎に付き合つてやってるんだから、もっと気合を入れてマン汁吸いなさいよっ、ほら、ほらあつ！



少年の下腹部に跨がっている女は、膣内に放たれた精液をぬちやぬちやと零しながら、激しく腰を打ち付け、昂りを促す。また、顔面に跨がっている女もすでに興奮を隠さず、陰部をさらに押し付ける。大量の愛液がだらだらと少年の口に吐き出され、時折隙間からびゅ、びゅと漏れだしている。少年がそれをこくり、こくりと飲み干していくのは、そうだなければ窒息してしまうほど湧き出てくるためだった。

精通したばかりの少年があられもない格好をした二人の女に押さえつけられ、良いようにされているこの光景は、傍から見れば虐待で惨たらしいものだったのかもれないが、少年は自分の柔らかく大事な部分を犯されていくことに快感を覚えていた。息苦しくて仕方がないのに、もつとしてほしい…という被虐的思考が少年の頭をよぎる。

あつあつ♡私いけないことしてるっ♡シヨタを無理矢理犯してっ♡シヨタちんぽじゅぼじゅぼしちやつてるっ♡

ぶんぽん♡

あ、はあっおちんぽ硬いっ♡♡可愛い♡♡♡シヨタちんぽ気持ちいいよお…っ♡

んふっ♡おねえさんたちに犯されて気持ちいいわよね。最高でしょう？アタシのマン汁じゅるじゅる飲んで…ん♡♡♡あ、あんで…いやらしー子お…♡♡♡

ふ…うんっあん♡♡やだっこの子、マンコの中…舌入れてきたあっ♡あああつあつ♡♡

ふあああん♡おちんぽっおちんぽびくびくしてるっ♡♡イっちや、イっちやう、あっどうしよう、こんなちっちゃいおちんぽで私イカされちゃうっ♡あつ♡あつ♡あつ♡あつ♡

んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡

ガチガチに硬く勃った小さいペニス、そして淫汁溢れる蜜壺におずおずと拙い動きで舌を這わせ始めた少年に、彼女たちも彼の興奮を知る。女性たちの動きがなお一層激しくなり、そして…

女たちの秘部から水しぶきがあがった。蜜壺から生温い、少し白濁している液体が噴き出してきたのだ。ぶしゅぶしゅと爆発するかのよう  
うに潮を吹きまき散らし、彼女たちは絶頂した。



強烈な快感に、三人は息を荒げてその余韻に浸っていた。乳首がピンと立ち、蜜壺をうねらせる女たちの豊かな肉体は少年の上でビクビクとわき起る。オーガズムに身を震わせている少年の下半身は自らが吐き出した精液と少女の愛液と潮とでびちゃびちゃだった。女のオーガズムが終わってもなお、少年はドクドクと射精を止めることができない。達した直後で収縮する女の内壁がペニスを刺激しつづけ、それに抗うことなく精液は勢い良く子宮へと流し込まれていった。

ふああ…アタシの吹いた  
えつちなお汁…ごくごくって…  
いっばい飲まれてるう…

あつあ…♡こんなは  
たくさん…射精…♡  
おまんこの中で  
まだまだどびゅどびゅ  
してます…♡

はあ、あつあつ♡は  
すこい♡もっ♡もっ♡  
ごくごくしてえ…あつ♡

私の子宮っ♡  
びくびく、つてして…  
赤ちゃん作れるって  
喜んでます…あ、  
ああ…♡

ぐん…ぐんぐ、  
ぐぶ…っ！  
グー

ぐん…  
ぐう…



少年はぶしゃぶしゃと顔に吹きかけられる潮を、ゴクリゴクリと喉を鳴らして体内へ受け入れていく。空気をとりこむことを許されている鼻でどうにか息を吸い込んだ。時折歯や舌が蜜口にあたってしまふと、更に大量の生温い液体が大量に口内に流れ込んでくる。強制的に嚙下させられ続け、喉が痛いくらいだ。しかし、女の蜜壺から出る潮が水鉄砲のように喉奥を震わせる。度々、少年のペニスはビクビクと反応し更に射精をするのだから、彼は苦痛だけを感じていたわけでは決してなかった。髪や服にまで水を含み不快感をもたらずに、そんなことにさえ気付かないまま、少年は快楽の波にただ身を横たえている。

それから少年は、何度も強制的に絶頂へと導かれた。幾度目かの射精の後、ペニスが硬さをなくしても女はすぐに根元まで陰茎をくわえこむと腔を収縮させ、勃起するまで決して抜こうとはしなかった。何度も顔に潮を浴びた少年の肌はふやけきつてしまっている。嘔下を繰り返した口内は広がる味にも慣れてしまった。ぼやける意識の中で、時折正気を取り戻しては、その異常な事態を再確認しペニスから精液を迸らせ、そしてまた理性を失う、ということが少年の中で何度も起こっていた。

あ、はあ... はあ... つ  
あふあつあふ...  
あつまた、またえつちな  
出ちやうううつ♡♡

ふああ... あん、ね、さつきから  
もじもじしてますけど...  
もしかして姉さん、アレ...?

ひあ、は... っん、うん...  
したい、おしっこ... おひっこ  
しひやい... ひっこおまんこ  
なめなめさながらおひっこ  
しひやいのお... ♡♡

ん♡姉さんはお漏らしするの  
好きですもんね♡この子の  
クチまんこを便器にする気  
とつても... さん、ちゅっ  
いやらしくて、素敵... ♡♡

はふ... ふ、おしっこ、おまんこ  
おしっこ出していい?  
この子の顔にじまほじまほ、  
あふつ、おもらし、していい?

いいですよ♡姉さんの汚い  
おしっこ、この子に全部  
飲んでもらいましょね♡



頭上を陣取る女がぶるりと震えたかと思うと、少年の口内にじよぼじよぼと今までとは別の液体が注ぎ込まれた。尿だ。潮や愛液のようである程度断続的に流れ出てくるものとは違い、我慢していたのだから、あ夥しい量の水が一度に放出され少年の息が詰まる。今度こそ少年は窒息死を覚悟した。生命の危機を感じとった瞬間、少年は射精しきつたはずのペニスから、大量の精液を噴水のように噴き出させた。それは一直線に少年に股がついていた女の子宮を指し、女を幾度目かのオーガズムに達させた。



少年は必死でぎゅぎゅと尿を飲んだが、幸いにして尿道が少年の口より少し上になつていたため、その全てが少年の喉へ向かうことほなく、結果少年が窒息死することはなかった。けれど、愛液、潮、小便を立て続けに飲まされた少年の胃は液体で満たされ、これ以上はもう何も入らないというほど膨らんでいた。度重なるオーガズムと屈辱的な行為に、少年の被虐心は最高に満たされていた。

やがて少年を犯すことに満足したモンスターたちは、体勢を整えようと揃って性器を少年の方へ突き出してきた。腰をいやらしくねらせ、貝合わせのように互いの陰部を擦り合わせつつ少年のペニスを懇願する。

はっ、はっ、はっ♡チンポおっ、はっ♡チンポほしい♡おん♡早くマンコにおしこいで♡マン汁と潮とおしこいで♡びちよびちよなの♡子宮が疼いてせつないの♡...

ああ♡あ、ひゃあ♡ね、姉さんやめてえ...♡クリトリスこすつちやだつせつかく子宮の中溢れできちやうよお...!!

やだっ！あんたばかりずるい！はやくチンポおっおおお！チンポいれてよおおおお！ほしいのおおおおおおお！

愛液を漏らす女は先程行った顔面騎乗だけでは満足できなかったのだから、ペニスがかいた腰を揺らしながらぽくぽくと陰部を開閉させている。下敷きになっでいる女は逆に陰部をきゅつと引き締め、注がれた精液を零すまいとしている。女がくねくねと腰を振るものだから、合わさったクリトリスが擦れてしまっただけでもない快感が沸き上がる。実際上に乗る女はその度に軽く、しぶきをあげ感じている。溜め下で寝る女も膣内に溜めまっしてある精液を滲みださせてし



散々良いようにその身体を弄ばれ、ふらふらしながらそれでも少年は何とか立ち上がった。今まで自分の上で好き勝手に動いていた女たちの陰部がペニスを求め淫猥に収縮している。その様は酷く蠱杓的なものに思えて、少年は本能の赴くがまま、引き寄せられるように近寄っていった。

ちよつ：ちよつと待って、姉さん！今くらい私に譲ってくれたって良いじゃないですか！

何言ってるのよつアンタはさつき沢山中出ししてもらったじゃない！アタシだつてシヨクンボザーメンほしい！

だつて姉さん、いつもは私がどれだけ言つてもおちんぼが放さないじゃないですかっ！

なつ：そんなことないわよ、二回目にはアンタにあげてるでしょ！

散々姉さんが絞り尽くしたあとで！殆ど気絶寸前の状態で寄越されても全然気持ちよくなれないんですよ！この子は駄目ですつこの子の精液は全部私のなんです！

何ですつてえ！絞り尽くしたあとの楽しみを上げてたのに随分な言い草じゃない！このチンポはアタシのよ！

私のです！

アタシの！

私の！

アタシ！

大きな尻に顔を埋め、手のひらでその肉をわし掴んでみる。頬の下にはきゆうと窄まるアナルがあり、少年がむにむにと尻を揉みしだくとひくひくと喜んだ。女たちに言われるがまま、ペニスをそこに宛てがってみる。頭がぼうつとして、どこかに挿入すればいいのかわからず判断がおぼつかない。





やがてとうとう我慢できなくなり、少年は肉と肉の間、クリトリスが合  
わさっているその僅かな隙間にペニスを挟み入れた。ペたりと合わさるヒ  
ダは、割り開いていくペニスを弾力性のある肉の海へと迎えその上、カリ  
と裏筋にクリトリスがコリコリと当たり甘やかな刺激をもたらす。少年が  
恐る恐るペニスを引いてみると、クリトリスがペニスのでっぱりをなぞり  
ビクビクと震えるのを感じた。それと同時に二人の蜜壺からは愛液と精液  
が噴き出し少年の耳に甘い嬌声が聞こえてくる。



既に嬌声とは言えない獣の  
と経験したことのない快楽に  
なっていた。何しろ全てが彼  
にとつては初めてのことだ  
初めのことだ。けさ



よきうき身体中に電流が走ったかの  
き起る甘い痺れが背筋を打つて震  
えながら寒気は同時に絶頂を  
迎えた。絶えず襲ってくる絶  
の波が思考を奪いつくす。か  
かる。リトリスに熱い精液が  
ふやけた脳は淫猥な行為に  
そこに熱湯でもかける。た  
のよな錯覚も起こした。た  
ニスで散々擦られた。た  
擦熱で充血した。クリスに  
液をかける。女たちは叫び  
に悶える。彼女たちは目の  
青を聞きながら。性目覚め  
う何も考えながら。た  
は初めのことだ。た

vs. モンスター





ひっ！つ！い！や！つ！や！だ！や！だ！つ！  
怖いよ！ッ！食！べ！な！い！で！え！だ！つ！  
放せ！はなせえええッ！！

うわあ！つ！ば、  
う！ッ！ク！ン！フ！ラ！ワ！…！！  
く！つ！く！そ！つ！離！れ！ろ！！

ゆるるる

じ

青い空の下、道を進んでいくと見慣れた緑色の土管があつた。飛び越えようとしたその時、宇宙に浮かせる歯を剥ぎ出し、服をビッ伸び形の少年の身体をからめたり蔓は少年を傷つけることなく引張る。リビと破つていき、ツンと立つ乳首に蔓を巻き付けぎゅと張る。更に少年のいき、下半身を露にし、舌の上にはけ物は、人間の小さなペニスに絡ませると鈴口をその長い舌の上に向けられた。彼の小さなペニスには、



ひいっ！な、何…ッ？  
お尻に何かあったかいの？  
うわ、な、何だこれッ！

びびッ！

や、お尻から食べるの…ッ？  
お、お尻から食べるの…ッ？  
美味しくないよ！

うと少年の心は恐怖でいっぱいだった。そんな少年を尻目に、その先端は一本の太いピンク色の蔓を土管の中から這い出させると、その先端は小さな穴から、どろりとした蜜を少年のアナルに向けて噴出した。尻にかかる生暖かい液体に少年は驚き身じろぎする。



少年の小便を全て飲み干した物は、ピンク色の蔓で少年の体内に注入された。少年の体内に注入された物は、大量の精液はあますことなく小なりな物を舌で受け止められる。少年の小便を全て飲み干した物は、ピンク色の蔓で少年の体内に注入された。少年の体内に注入された物は、大量の精液はあますことなく小なりな物を舌で受け止められる。





量の十分間、化物の吐き出し、少年は絶頂を委ねた。青く澄み渡る空も、生命を感ずる土の匂いも、快楽に身を委ねる少年はもう何も分らない。全てが、少年にとって初めてのことだったのだから。



少年が暗くじめじめとした地下道を恐怖心を振り切るように走っていた時だった。突然後ろから強い衝撃を受け、壁の傍まで転がったかと思うと、鋭い牙が少年の身に着けていた衣服を強引にはぎ取った。何事かと目を見張る少年を、透明な物体が包み込む。モンスターに捕らえられたことを知り、何とか手を伸ばして引きはがそうとするが、ぐにゆりとした感触を掴んだだけで到底抜け出せそうもない。

うわっ…！ぐ、うわ、  
何…モンスター…ッ？  
くそっ離れる！

ぐっう、柔らかくて  
掴めない…！あっ！

ああっ、うわ、  
ひっ…ひいいっ！

や…ア、おちんちん  
締め付けられるッいやだっ  
やだ！きゆうきゆう  
しないでえええええッ！

その内剥き出しになっていた少年のペニスを、からみ吸い付くように厚い膜が覆ったかと思うと、射精を促すようにぐにぐにと動き始めた。同時に、モンスターの尾の先が少年のアナルに入り込み、前立腺を圧迫する。柔く敏感な少年のペニスはすぐに兆しを見せ、先走り腺をぐちゅぐちゅと漏らした。







勿論一度の射精では終わらない。モンスターは捕らえた獲物の、精の全てを絞り尽くそうと更に膜を激しくうねらせる。幾度目かの強制的な射精により少年の自我は早くも崩壊の兆しを見せ始めていた。

数十分、数時間、もしくは日は跨いだのかもしれない。少年のペニスは、とうとうオーガズムに達しても薄く透明な液体を少量吐き出すだけになってしまった。たつぷり限界まで少年の精を吸い取ったモンスターは満足げな声をあげると、ぐぐぐと更に少年の奥へ透明な尾を押し込んだ。

モンスターの性質上、吸収するのは少年の「精気」だけで、モンスターの体内に残った液体は残りかすのようなものだ。そのため不要物はすぐに体外へ排出される。吐き出される先は、そう、獲物の体内の中へ。





数分後、モンスタリの体内から全ての異物が排出されたとき、少年の細い腹は少年自身の精液で妊婦のように膨れ上がった。大きくなつた自分の腹に、耐えきれなくなつてしまつた少年は、とうとう失禁してしまつた。当然漏らした小便も、精液でぎゅうぎゅうのアナルの中へ入り込む。後にはアナルからぶびゅぶびゅと自らの精液と小便を垂れ流す少年だけが残された。



vs.ハンマーブロス





少年は薄い意識の中で身を振った。身体が動かかない。金縛りで  
もあつたかのよう。ギンギンと身体が軋む。はつと目を開けるとそこ  
は異様な空間だつた。暗闇の中初めて目にしたのは、真っ赤なハイヒ  
ールに踞られて硬く上向きはしたなく汁を漏らす自身のペニス。突然  
のことに頭が真っ白になる。叫ぼうとするが何かに遮られてくぐもつ  
た声しか出せない。

……ん、…？

ぐんっ！

ぐんっ！

あら、起きたのね。  
ごきげんよう

坊や、随分気持ち良さそうに  
お寝んねしてたわねえ。気分は  
どうかしら？どこか痛いところ  
は…あら、ふふふ、そういえば  
喋れなくしてあるんだつたわ

んっ！  
んっ！

ぐっ…！

んん



よく見ると腕と足はガムテー  
プでぐるぐる巻きにされ身動き  
がとれなくなつていた。しかも  
身につけていたのは靴だけでも  
その他は下着もなにもかもはぎ  
取られていた。なにもかもはぎ  
取られていた。なにもかもはぎ  
少年がちらりと辺りを見渡して  
みると、冷たいタイルに覆われ  
たその部屋はどうやら研究所の  
ような様子、相を呈していた。  
おかしな相、確か自分には明  
陽の下で、草むらや山を一つこ  
えた先の草むらや山を一つこ  
だ。落ちた声、そこ、ぐるぐると  
に落ちた声、そこ、ぐるぐると  
の持ち主が声をかけてきた。

組んだ長い足の先でくりくりとペニスを弄ばれる。銀髪のモンスターは眼鏡を、そして白衣を羽織っていて、それらは研究者然としているが、その下のガーターベルトと、重量感のある乳房を惜しげもなく晒しているせいで全体的に痴女めいた格好になっっている。椅子に座り、左手に持つ資料を見ながら淡々ともたさされる情報は少年のもので、しかし少年自身でさえ知らない事実だった。その間にも女は真つ赤なヒールを上下に動かしてペニスを刺激する。龟头は赤く充血し、先走りがちゆぐちゆと音を立て、ヒールの裏側をべつたりと濡らすほどに溢れ出していった。

ここに来る前のこと覚えてる？  
キミ、私の投げたハンマーに  
当たって気絶しちゃったのよ。  
で、早速だけ坊やが寝てる間に  
ちよつと身体を調べさせてもらつたわ

平常時のペニスの長さ約7cm弱、  
勃起時で10cm。乳首とアナルは  
未開発。気絶状態において勃起させて  
射精するまでの時間が4分29秒。

少し早漏気味だけれど、  
年齢別で比較するとまあ、  
ごくごく平均的…といった  
ところかしら。

ただ、キミの場合は  
カウパーと精液の量が多  
かつても多いわね。そして  
覚醒状態において射精  
するまでの時間が…

ふんっ、ふんっ…  
ふんっ、ふんっ…  
ふんっ、ふんっ…

ぐんっ！ぐんん、  
ぐんっ！ぐんん、  
ぐんっ！ぐんん、

ぐんっ！ぐんん、  
ぐんっ！ぐんん、

ぐんっ！ぐんん、  
ぐんっ！ぐんん、

ぐんっ！ぐんん、  
ぐんっ！ぐんん、

ぬちゅっ  
ぬちゅっ  
ぬちゅっ



ハイヒールのざらざらした裏面が龟头を強くなぞり、少年は絶頂した。少し身体をずらしただけでペニスが高ヒールに擦れ、より強い刺激が身体中を駆け巡る。鈴口がくぱつと開き、奥から白くて粘り気のある液体が勢い良く噴き出される。少年はよほどの快感を得たのだから、爆発したように精子が湧き出てきて、宙を舞い少年の太腿から床にまで飛び散った。

……2分13秒。意識があるとならば随分早いね。ノコノコたちからの報告で若干のマゾヒズム的嗜好が見られるようだから、ヒールで踏んでいたのも関係あるのかしら。

ちよつとキミ、良いの？ ヒール越しでも震えが伝わってくるわよ、そろそろ止まってもいいはずなのに、まだビクビクしながら沢山精液まき散らしてるけど……

さつさとそのだらしないお漏らしチンポおさめないでないと、○歳なのにヒールでちよつと踏まれただけで先走りダラダラ垂らしながらザーメン飛び散らしてイク変態早漏ドM野郎つてレック変態早漏ちやうのよー聞いてる？

そして女の責めるような言葉で少年の中に潜められていた被虐心がはつきりと顔をもたげ、ペニスは萎える暇もなく再び痛い程に勃起してしまつた。





ガムテープで口を塞がれているとはいえ、うなり声をあげることはできる。すぐに昂りを逃らせた少年は、射精の痺れるような解放感に身を震わせた。性に溺れきった欲情が、変声期前特有の甲高い声をあげさせる。その声と、尋常じゃないほどの痙攣によって椅子に足を組んで座っていた女はようやくやく少年の行為に気付いたようだった。

まあ！お行儀の悪い子ね。勝手に人の足を使つてオナニーするだなんて... それにしても凄いやだわ。とても二回目とは思えない！

...そうだわ。昨日調査したあの薬... 人間相手はまだ実験してみたがなかつたわね。ふふ、試してみる価値はありそうだわ

びゆくびゆく精液が、真つ赤なハイヒールを汚して行く。顔を真っ赤にしながらく、赤い舌で吸って吐いての呼吸。だけで吸って返す靴の裏で射す。荒々と繰り返す少年の射精を見て、女の下半が少年の疼



寝起きのようなふわとした頭が現実には焦点を合わせたとき、少年は手術台のような冷たいビニール張りの台に乗せられていた。足に巻かれたガムテープはそのままに、膝には鎖のついた拘束具がとりつけられ、天井から吊るされている。足を開かされた状態のまま身動きがとれない。更に、手術台に直接はめ込まれているらしい金属製の枷が手首を隙間なく押さえつけていて、到底外れそうもない。

ひ！ちゅ、注射…っ？

ふふふ…じゃあ早速、と言いたい所だけど。アレは劇薬で、普通の状態で摂取するとモンスターでもショック死してしまう可能性があるのだから人間のキミは、充分に快楽に慣らしておかないと危険なのよ。

というわけで、まずはこの、赤キノコから摂取して精力増強用に調合したキノコエキスを。寧ろに注射するから、ちよつとチクつとすると我慢しなさいね？

突然目の前に赤い液体の入った注射器が差し出された。冷たく鋭利な細長い針に反射的に身構え、少年は何とか抜け出そうともがく。しかし、注射器を見てもなお萎えることのないペニスが、その嗜虐的な行為への期待を表していた。

ぽてつとした柔らかい睾丸に針が刺さり少年は泣いて抵抗した。内部まで入り込んだ針から、冷たい液体が流れこんでくるのを感じる。意外なことに痛みは針の侵入を許した一瞬だけだった。

や...やだやだっ！怖いっ！注射怖いよおおお！つ！つ！やだあああああああつ！

男の子でしょ、痛いの一瞬だからそんなに泣かないの...はい、良い子だからそのまま動かないでね、すぐ終わるから大丈夫よ

びくっ

ひいきっ...! ひいきっ...!

ひくっ、ふ...あ、あ...

ん。はい、終わり。ね？チクつとしただけでしょ？大丈夫、すぐ気持ちよくなるわよ

やがて麻酔を打たれた時とよく似た、ポワツとしたような痺れが睾丸からペニスにかけてじわじわと広がる。針に対する緊張感が知らず身体に入っていたのだらう、全ての液体を注入されると針が抜かれ、ほつと気が抜けた。しかし、変化はすぐに現れる。

熱い。性器の内側から熱が広がり、全身に汗が噴き出る。心臓はぼくぼくと音をたて、息が上がり肺が震えて呼吸もままならない。ドクンドクンとペニスの中心から打ち付けるような鼓動が伝わってくる。その鼓動が一際大きく芯を揺らした時、信じられない事が起こった。

あつ、い、は、あ、...つ!  
う、うそ...ついやつ!  
おちんちんがヘンだよおつ!

あ、あ、あ、やつやだあ、  
ひ...つこわい、やだ、  
やだよお...おちんちんが、  
おつきくな...つ!

あああつ、あ、  
あああつ、あ、  
あああつ、あ、

あつ、あつ

うん、上出来ね。皮もズル剥け、  
血管もぼつちり浮かび上がってて  
素敵よ。先走りもダラダラ零して...  
はあ、美味しそう♥でもアレを  
試すにはまだまだだね...

睾丸がどんだん熱をあげて膨れ上がり、それから間もなくして、少年の小さなペニスに血管がビキビキと浮かぶ。少年は身を起こる異常な状態に声にならない悲鳴を上げるが、膨張は留まる所をしらない。発露やがて熱動が収まったとき、可愛らしかったペニスは、白くて細い。発露途上の肢体に不釣り合いなほど大きくグロテスクなものへと姿を変えて簞えたっていた。元の大きさと比較すると二倍、いや三倍以上はあるだろうか。その中心を上向きさせダラダラと先走り垂らし、腹の上に影を落とすしている。





注射器を置いた女は、少年に向き直ると人差し指でつん、と巨大化したペニスの裏筋をつついた。作りかえられたばかりのペニスは敏感で、少しの刺激でも簡単に少年を絶頂へと導いた。体内で作られる精液も増え、夥しい量の液体が少年の腹を汚していく。

とりあえず、そのままじゃキミも辛いでしょう？一度射精しておきまじょうか

うふふ、大丈夫♪ぐちゅぐちゅなんてしないわ、だって……巨大化させた直後なら指一本で気持ちよくなれるのよ？ほら

あらあら、凄いわ、こんなに沢山の精液……♡

やっ！やめでツツ！いまついまざわらないでっおちんちんぐちゅぐちゅしたらじんじやうよおおおおおおおおおおお！



また、注射を打たれた直後までは、麻痺したようにペニスの感覚が鈍っていたようだったが、ここに来てその麻酔効果が切れた。浮き出ている血管一本一本が存在を主張し、血が沸騰したように脈々と鼓動を刻む。直前まで体内にあり、空気中に吐き出された精液の一滴一滴が白い腹の上に落ちるまでの間、血の通った神経帯と同じく繋がっているような気がした。

射精は中々収まらない。それは少年にとつて通常と同じことだったが、こんな風に薬で敏感になつて今のは尚更だつた。既に人間が一日に射精できるであろう限界量まで出しているはずなのに、鈴口から飛び出す精液は収まる気配がない。一瞬止まつたかのように思えてもペニスに付着した自身の精液、びくんと震えた瞬間に触れるわずかな微風でさえも刺激になり、再び射精してしまう。

うふふ、そろそろ治まつてきたかしら？

さて、じゃあ次はアナルに特製極太パイプを挿入してみましようか。そのままじゃ流血する可能性もあるからたつぷりローションかけておくわね

そうそう、これも特別なよ。ファイヤーフラワーの蜜で作られた催淫効果のあるローションなの

モンスタリーの間ではポピュラーな媚薬なんだけど、人間のキミが使つたら、暫く射精が止まらないくらい強烈だからアレを使う前座としてはぴつたりつてわけ♡

その様を痙攣しながらも呆然としたように見つめる少年を尻目に、白衣の女は玩具を用意するとスイッチを入れる。女の手の中で振動するペニスの形を模した紫色のそれは、裏筋に当たる部分に幾つかの丸い突起がついている。前立腺を確実にえぐり刺激するための、どちらかと言えば男性向けのものだ。女は何やらドロっとした、怪しげな液体をその玩具の上に垂らし、全体になじませるようにたつぷりと惜しみなくかけていく。



女はひくひくと震える少年のアナルに玩具を宛てがい、薄紅色の液体を塗りこむように先端を数度擦りつけると、一気にそれを押し込んだ。女の弛緩していたことも手伝って、えげつない大きさの玩具をすんなりとその身の内に沈めていく。肉壁を抉り取るようにぐねぐねと跳ね、媚薬が内肉を通して染み込む。

うふふ、アナルがひくひくしてわよ。そんなにこのパイプがほしいのね？男の子なのにペニスか欲しい淫乱なキミには、お望み通り！一気に入れてあげるわ！よっ！



振動が一番強くしてあるから、前立腺ぐりぐり押しつけてきて凄いでしょ？ふふ：媚薬も効いてるみたいだし、そろそろかしら。

アナルに極太パイプを挿入した途端と、よっほど気持ちいいのね♡

少年が身じろぎすればするほどに玩具は奥深くへと入り込んでいった。本物のペニスよりも凶悪な反り返りを持つカリと、ゴツゴツとした突起は少年の前立腺を的確に刺し返り、悪寒が走るほどの痺れをもたらした。腹の中から浸透した媚薬により更に射精の勢いは増し、少年の身体を一層震わせる。

快感にえすぎ、まともな声も出せないどころか、呼吸もままならない。収まらないエクスタシーにひはひはと喘がされ涙を止めようとしても止まらずにしやくり上げる。それもそのはず、少年は○歳にして精液の存在すら知らなかつたのだ。こと快楽面においては、限りなく純真で、清らかでまっさらで無垢な赤ん坊と同じだった。

よし...と。ふう、準備ができたわ。一滴でも肌に触れたら大変なことになっちゃうのよね、これ。

うふふ、何だかわかる？キミがいつも使ってるスタミナキラー苦勞したわ。私たちにとつては死の象徴だから。でもおかげで素晴らしいものができたのよ。

これが完成したとき、試しにメスクリボーの右腕に垂らしてみたの。ふふふ、あのときのことを思うとまだゾクゾクしてきちゃうわ。右腕をね、だべんすみたいに左手で扱いて一晩中絶頂しつづけたのよ。あまりに擦るから右腕が赤く爛れてしまっただけにね。

皮膚に垂らすと瞬時に吸収されてしまうのね、水で洗つても効果は途切れない。薬の開発に成功した私は、本格的な実験として更にクリボーのクリトリスにたっぷり垂らしてみたの。ふふ、水と食料だけ与えて三日間放置してみたわ。ふふふ、どうなつたと思う？

うふふ...完全に狂つたわ。目は虚ろで指一本動かさない。掠れた声で絶叫して床に転がりがりながら、肥大化したクリトリスが痙攣して絶え間なく潮吹きしてた。はあ、彼女を観察しながらのオナニーは最高だったわ...でも、人間に授与したことはないの。うふふふふ...期待、してるわよ♡

そんな少年が、薬で無理矢理快楽を刻まれもがき苦しむ様はなんと官能的なことだろうか。白衣の女は自分の異常性を自覚しながらも子宮が疼くのを止められない。陰部から愛液がだらだらと溢れてくる。汗と涙がぼたぼたと頬を濡らし射精はまだ止まらない。頭が血がのぼり、頃合いだらう。女は再び注射器を取り出した。金色に輝く液体に触れないよう、細心の注意を払い、睨丸に針を刺す。少年はもう、注射器に怯える余裕もないようだった。







変ね... どういうこと?  
ペニスの肥大化は想定通りだけど、  
一度の射精が5分以上も続くなんて  
そんな馬鹿なことが...

...まずいわね。このままでは身体中の  
栄養も全て精液に変えて、最悪の場合  
衰弱死してしまうわ... 困ったわね、  
実験体とはいえ、流石に殺してしまっ  
ては一体どんなお叱りを受けるか...

少年の頭上を越えて飛び散る精液が周囲を汚していく。噴水のように射精す  
る様を見て白衣の女は満足した。しかし、何やら様子がおかしい。最後に注射  
してから射精が5分以上続いているのだ。興奮が止めたいとしても、体内に溜めておける精  
液には限りがあるため、いずれは打ち止めに促している。人間が射精できる量  
はもともと絶頂した？いくらかで精力増強を促している。体内中のタンパク質を精液  
はとづくに越えているはずだ。では何故... まさか。人間に試したことのない未知  
の薬だ。人間の身体に存在するタンパク質は全体の二割程：  
人間の身体に存在するタンパク質は全体の二割程：



あああん、もうっもう我慢  
 できるないっ！おちんぼつこの  
 大量の精液ぶびゅびゅして  
 おちんぼ私のおまんこに  
 いはいはいはいはいはい  
 いはいはいはいはい  
 いはいはいはいはい

！何てこと！じ、自分の精液  
 飲むなんて……はあ、はあ、  
 飲むなんて……はあ、はあ、  
 生きた人間って面白いのね  
 こと？人間って面白いのね  
 はあ、あんなうふいっ！  
 良い、とっても良いわっ！

し……んじやう……？  
 いやだ……にたくない、  
 ぼくは、ぼくはまだ……

少年は薄れる意識の中で思った。死にたくない。しかし身体は動かない。このまま何もしなければ本当に死んでしまうかもしれない。出来  
 る限り頭部を起こし自らの亀頭に口をつけた少年は、あろうことかその  
 まま溢れ来る精液を吸い飲み始めた。とにかくこの溢れ出てくるものを  
 体内に戻さなければ。全ては少年が持つ生存本能の為せる事であった。

それからしばらく。薬のせいでも鹿鹿みたいに限界を超えて射精していた少年のペニスを一応の収まりを見せているが、あたりは凄惨たるものだった。深緑色の身体にも大量の精液がまとわりついていて、少年

はあ、はあ…っ♡  
これだけ射精しても  
勃起しているなんて…♡

うふ、うふふっ、  
私のおまんこで  
扱いてあげるん  
だから、っはあ、  
はあ、気絶するん  
じゃないわよっ♡

ギシ…。白衣の女が手術台の上に乗る。彼女は発情しきったメスの顔をしていた。成熟しきった肉体をくねらせ、少年の上に跨がったかと思うと、射精を終えてなおそり立つその雄々しいペニスに陰部を擦り付ける。









子宮から直接響いた快感で、女ははくはくとして、浅く呼吸を繰り返して、その矢先の出来事だつた。ほんの少し身じろぎをした時、穿たれたままだったペニスが蜜壺の奥先をかすめた。瞬間、女は凄まじい勢いで噴水のように潮を吹きながら達した。生暖かく透明な液体があたりをびしゃびしゃに濡らしていく。ペニスの側面に隙間無くびつたり沿っている膣肉が激しく収縮する。

メスとしての本能に従い、女は必死に腰を上下に動かし精を搾り取るうとした。が、巨大なペニスは一ミリの余裕もないくらいに蜜壺の中にびつたりとはまり込んでいて、その上あまりに強烈なエクスタシーにより上下に揺さぶることなど到底できず、腰を回すことすら困難だ。少しでも動けば絶頂してしまふため、今度は腰を動かさず内部を意識して膣に力をいれる。余計に熱が昂り再び絶頂してしまうが、自身がオーガズムに達するたび少年のペニスがかき回す。気がついた。少年のペニスが脈打ちそして、どくと力強く締め付ける秘肉に、どくと少年のペニスが脈打ちそして

と力強く締め付ける秘肉に、どくと少年のペニスが脈打ちそして





絶叫が轟いた。ホースから直接大量の水を流し込まれたような、子宮の形  
を変えてるほどの勢いで精液が子宮に注がれる。子宮に入りきらなかつた精液  
が音を立てて蜜口から噴き出した。女が白目をむき精液の海へ倒れこむま  
でそれは続いた。冷徹で無慈悲な女はもうどこにもいない。そこにいるのは  
巨大なペニスに芯の奥まで魅了された、爛れきつた一匹の雌だった。更に無

限界まで射精した後、更に無  
理矢誘われた射精に、放心状  
態だつた少年もまた意味を持た  
ないうなり声をあげるだけに  
つていた。怒濤の快樂の波にな  
う何も考えられない。全ても  
彼にとつては初めてのことで

vs.クツパ



長い長い旅路の末、少年はついに姫が囚われている城へと辿り着いた。襲いかかる火の粉を蹴散らしながら進んでいくと、玉座に一人の男が座っていた。

「ガハハ！とうとうここまで来たか、マリオよ！」

男は鋭い眼光で少年を睨み襲いかかってきた！血肉迸る激闘の末…

…う…っ？う、うぐっ！  
お、お腹がくるしい…っ！

フン、ようやくお目覚めか？  
良い様ななあ、マリオ。姫まで  
後一步の所で我が輩に負け、陵辱  
されている気分はどうだ？

！そ、そんな…っ  
いや、いやだあ…っ！

しかし貴様の身体が小さくて  
ペニスが入りきらん。仕方が  
ないから緩めてやろう。せい  
ぜい感謝するんだな

う、う…っ！

しかし少年は負けてしまった。  
絶していただろうか。少年は目を覚ますと、服をはぎ取られて  
おり、下腹部にとてつもない異物感を覚えた。腹が膨らんでいる。先  
程少年が戦っていた浅黒い肌の男が背後に座っていた。玉座の上に深  
く腰掛けている男はなんとその雄々しいペニスを少年の後孔に挿入し  
ている。しかし大きすぎて少年の内には収まりきれない思いで少年は涙を  
流す。少年は敗北を悟った。悔やんでも悔やみきれない思いで少年は涙を  
の矜持を辱められていることは確かだった。



クク：そうだ、ペニスを  
扱くだけではつまらんな。  
女のように胸だけで  
絶頂してみせる

い、たっ！い、痛いっ、  
やだやだっ触るなあー！

なに、難しいことはない。今だっ  
我が輩のモノを突っ込んでい  
先走り溢れ出してはいるだけ  
貴様は雄ではない、根っから  
配置されてはいるモンスター  
サドっ気のある奴らばかりだ  
っつたらう？

くあつ、ふ…っ！な、何を  
意味の、ふ、分らない  
ことを…くううっ！

状況を理解すると、未だ主張する下腹への異物感に苦しさが迫って  
くる。少年の腕を拘束していた男の手がぱつと離れ、解放されるのか  
と少年は少しだけ期待したが、すぐ胸へ伸ばされた大きな手に希望を  
打ち砕かれる。平たいそこをぐにと痛い程にわし掴んだ男に動揺を  
隠せない。男は長い爪をものともせず、乳を絞るような器用な手さば  
きでぎゅうぎゅうと少年の胸を揉んだ。



は、は...あ、ああ...  
いや、いやあ...あつ

フン、分かるか？乳首が  
赤く腫れてきたぞ。ピンピンに  
立ちあがりつて、触ってくれと  
言わんばかりだな...

そ...なわけ、な...  
あ、あつ...うんっ

本当は気付いているんだろう、  
先走り座面が汚れているぞ。  
いい加減認めたらどうだ、  
貴様は下の穴と乳首で感じる雌  
なのだと。今に我が輩のペニスを  
泣いて欲しがるようになる...

きゃひっ！や、ちくびっ  
ちくびもういやああ...っ

男は遠慮なく強い力でぐにぐにと少年の肉がついていない胸を揉んでい  
るが、赤くぷっくりと立ち上がる乳首には触れようとしない。緩急をつけ  
ずに、出ない乳を搾り取るかのように乳首の周りを刺激している。その内  
に少年の白い肌が赤みを増し、少年は頭がぼうつとしたような、妙な感覚  
に陥る。息は段々と荒くなつていき、ペニスの先からは絶えず先走りが滴  
り落ちた。  
少年は自分の身体に起こっている変化に頭がついていかない。背後の男  
に弱みを見せまいと、必死に口を噤むが、時折男の長い爪が乳頭に触れる  
と、耐えきれずにより高く甘い声をあげた。



そして、男の指が赤々と色づく乳首をきゅつと摘んだ途端。少年の背筋に冷たいものが走り、ついで熱が灯ったように全身に火がついてびゅくびゅくと精を吐き出した。小さなペニスを震わせて、質のよさそうな玉座の座面を白い液体が汚していく。あまりのことに一瞬、息が止まる。

あ、ああ、いやっ  
そんなつねつちや...

フハハ、本当に乳首だけで  
絶頂しよった！おお、中も緩んで  
いやらしく収縮しているな  
これなら我が輩も楽しめそうだ

顔が熱くなり、細い身体がビクビクと痙攣し、男のペニスへ絡みつくように内壁が蠢いた。これ以上入らないと思われたのに、ず、と少しだけ男のペニスが奥に進む。未知の感覚に少年は涙を流して耐えることしかできない。その間にも男はくにくにと、少年の敏感な乳首を転がしたり、押しつぶしたりと弄んだ。



少年の乳首は痛々しいほど赤々と染まっていた。男は手を離すと、再び少年の腕をぐいと引つ張り一気に怒張したペニスを奥へ突き入れた。射精の快感で緩まっていたそこはすんなりと男のペニスを受け入れ律動がはじまる。

あつ、あうつ、やつ！  
やめてえつお腹ぐちゅぐちゅ  
しないでえええええつ！

やつあ、ぐるし…っひぎ、  
いやああああつ！

奥へ突く度絶頂して  
いる奴が何を言う？

あつあつあつ、  
いやあああつ！

ひいつあつ  
いやあああつ！

男のペニスは少年のものとは比べ物にならないほど太く、長く、太く、座つたまま腰を器用に動かして最奥を突くとそれに伴いペニスの形が分かる程に少年の腹が出つ張る。怒張した男のペニスが前立腺を抉り、奥へと突くたびに少年は絶頂した。ぐちゅぐちゅと濡れた水音が響き渡る。



よし…出すぞ。その薄いっ腹でしつかり受け止めるろっ

はやく終われっ！  
はやくはやく…っ！

くっ…！が、我慢しなきゃっ…  
こんなのすぐ終わる、これに耐えればきつと…っ！



腰を打ち付ける男の律動が徐々に激しくなり、一際奥へと突き入れたときだった。少年の腹に熱いものが広がる。夥しい量の精液が体内へ流れ込んできたのだ。内に受け入れきれず溢れ出てくる液体が割り開かれて尻にかかると感じる。少年は思った。これは暴力だ。人としての尊厳を土足で踏みにじり、昂りで思考を捨てさせ力づくで服従させる卑劣な行為だと。ここで自分も精を吐き出してしまったら、今まで守っていたものが全て崩れ落ち粉々に砕けてしまうような気がした。腹の中でドクドクと零される精液は、直接ペニスへ響くような強烈な快感をもたらしたものの、なげなしの理性で少年は何とか射精を止めることができたのだ。――

…体内に直接注ぎ込まれる精液が少年の限界を越えても、男の射精が止まることはなかった。巨大なペニスと後孔の間にそれほど余裕がある訳でもなく、隙間から精液を逃がすのには限度があった。女性の膣であればそれでも子宮を満たすだけで済んだもの、少年はそうでなかった。つまり行き場を失った精液は当然、最奥の、その奥へと。

クク…フハハハハハッ  
まるで妊婦のようだな！  
少し耐えれば終わると  
でも思ってたか？  
フン…教えてやろう

何故モンスター共が我が輩を  
魔の王に据えたいと思っただけ  
戦闘力もそうだが、何より求め  
られるのは「繁殖力」だ  
一度の射精で確実に孕ませ！  
強い力を次代に残す！

…王に選ばれた我が輩は一族の中で  
最も相応しい「力」を持っている  
クク…貴様のような生意気なものでも  
一度で雌に変えてしまうほどのな…

腸を逆流し胃にまで達し、やがてどちらともをパンパンに膨れ上がらせるほど精液が注ぎ込まれた。精液でたぶんとした少年の腹はさながら妊婦のように膨らんでしまった。いつの間にか少年は射精しており、必死に繋ぎ止めていた理性が弾けとんで獣のような声を上げるだけになってしまった。





はあ、はあ…♡  
く、クツバ様あ♡

ぼく、今日はおちんちん  
くちゅくちゅしないで  
待ってたんです♡白い  
おしっこも出してません…

お尻の穴が疼いて  
たまらないです♡  
はやくはやくクツバ様  
おちんちんをガンガン  
くちゅくちゅさせて

少年が囚われて数日が経った。  
冷たい地下牢の中で毎日アナル  
を犯された少年は、すっかり男の  
ペニスに馴れた。女用のお着  
せられて淫らに腰を振りながらお  
ねだりをする姿は、数日前と  
比べて別人のようだった。  
乳首もペニスも全く隠せていな  
い。格好も、今の少年にとっては快  
感に繋がるだけだ。今日も少年は  
小さなペニスから先走り垂らし  
ながら、男のペニスをねだり自ら  
アナルを割り開く。



あつあつあふつは、はやくう、  
おちんちんじゅぼじゅぼして  
くらさいつ♡これ以上お尻のあな  
ずりずりされたらっ！それだけで♡  
白おしつこでちやいますっ！つ♡

あ……んっ！あ、  
はあ……っ大きい……♡

先走りをおんなに垂らして……  
まったく、いやらしい奴だ

男はギンと張りつめたペニスで  
取り出すと、焦らすように先端で  
ゆつくりと割れ目をなぞる。先端で  
雄々しいペニスがヒクヒクとは  
したなく震える。後孔をかすめたと  
き、少年はこれから与えられるだ  
ろう快感への期待でぶしゃつと液  
を漏らし、一瞬息を詰める。射  
精してしまつたかと思ふ。汗が  
が、透明だ。少年は安堵する。数日  
前は、挿入せずと絶頂してしまつた  
前、とき、仕置きだ。その日は玩具の  
とき、宛てがわれ、欲を握りぐりと  
めに宛てがわれ、欲を握りぐりと  
機械的な動きで前立腺を刺激する  
玩具は、気持ち良かつた。妊婦のよ  
あの膨れる奥まで突かれ、満たさ  
れる快感を思えば、どうしても物  
足りない身体は従順で、より強い快  
楽を追い求めようとした。







あああつ、はあつ！はあつあ！  
お、おちんちんつ、おちんちん！  
気持ちいよおつ！あつあつあつ  
あつ、あううつあんっ♡

もつと、もつとおちんちん  
欲しいよおつ、くつぽさま、  
くつぽさまあつ♡もつと奥まで、  
奥までいれてくださいっ♡

あつあう、奥までぐりぐりゆして、  
ぼくのびくつてなるところに、  
ふんつびくつてなるところに、  
くりやさいいっばい！きもちいけて、  
びくつてできなのおお、白いど、  
おしくつてでなのおお…っ！

男はその日珍しく、ペニスを根  
元深くまで挿入せず、浅いとこ  
で挿入を繰り返した。少年は奥ま  
で届かないペニスに歯痒さを感じ  
るが、まるで丸から押し出される  
よう、まるで尿道と精液を漏らす  
もどかしい思いで少年は男に奥を  
突いてほしいと懇願するが、先  
受けて入る気配がない。先端の  
でゴリゴリと内壁を抉り、その動  
きは速くなっている。





少年一際大きな水音を響かせて男と  
 まで届かんばかりに奥へ奥へと胃  
 たれる精液により快感は奥へ奥へ  
 挿入もそれほど変わるかと押し  
 だるう。前立腺をぐつと少年はす  
 せり上がってくる精液に少年は  
 ぐさまオーガズムへと達した。擧  
 丸が震え、少年の狭い出口が拡  
 られる。ホースから流れ出す放  
 水のよう。男の精液が腹の中に  
 たれかいている。男の精液が腹の中  
 の射精が続けるのだらう。少年は  
 感の射精が続けるのだらう。少年は



アナルの中で震えるペニスの脈  
 動が小さくなつたときにはもう  
 少年の腹はぼつこりと膨らみ、精  
 びていた。入りきらなかつた精液  
 がアナルから溢れ出している。足が  
 なるほどに溢れ、結合部が見えなく  
 ガクガクと震えて、とても立つて  
 いられないが、このジンと震える  
 甘い快感を少しも味わつていた  
 いと少年は何とか持ちこたえる  
 口元からは余りなく溢れる涎を  
 口に元から余りなく溢れる涎を  
 揺れる腹をこさえて少年は未だ  
 と揺れる腹をこさえて少年は未だ  
 続くオーガズムに溺れていた。



はあ、…きょうも、くっば  
 さまの…♡しろいおしっこが  
 いっぱい♡どぶゆどぶゆ  
 あつくなつて、びくんびくん  
 なつちやいました…♡

あああ…  
 あ…ふあ…

クク…これが姫を助けたす  
 英雄だとは到底思えないな。  
 今日はもう少し遊んでやろうか

と、ずる、と男がペニスを引き抜く  
 形に少年のペニス赤い  
 内壁が丸見えで奥には男の放つ  
 尻に擦りつけた精液が閉じきらな  
 い少年は息を整えて、快楽の余韻  
 に浸つて流れたペニスはこのまま  
 放置したようだ。腹のモノを処理  
 させるのだが、自分で少年の痴態に機  
 嫌をよそした男は、少年の痴態に機  
 んでやるうと口を開いた。





こんな時に正気に戻るなんて、  
まだ自分の立場が理解できて  
いないようだな？

ひいっ！やっやめろ  
おおおっ！あつ！あつ！あつ！  
あつあつあつ！あつ！  
な！で、なんでっええ、  
あつ、やだやだ、きもちよく  
なりたくないっ！おちんちん  
あつ！いれないうでえええっ！

少年は再び硬く勃起するペニス。少年  
は戸惑い何と逃げ出す。少年  
が根がはより裏切るかのよう  
に足入る根がはより裏切るかのよう  
に肉をわたり開く。拘束はググつと  
ようと思えば逃げられるはずな  
に、少年の身体は意に反して植  
え付けられた快楽を追い求めるこ  
とを選んだ。快楽を求めると、怒  
張を一年の根元まで突き入れた。怒  
先程少年の放つ精液が男の  
龟头を包み込み、抽挿する度に溢  
ちゆぐちゆと卑猥な音をたてな  
れだしてゆく。少年は真赤にな  
りながらいやと首を振るが、懸  
命に突かれるやと首を振るが、懸  
少年が震わせた射精するのだから、明  
らかだつた。望んでいることは明





手を使わずに腹に溜まった  
精液を吐き出せ。できるな？

…ふう、これで歯向かう気力  
などなくなつただらう。さあ、  
哀れな奴隷にもう一度だけ  
チヤンスをやるうじやないか。

男は精液を全て出し切る寸前で  
素早くアナルからペニスを引き抜  
くと、少年の尻に満遍なく残りを  
かけた。少年の薄い腹をまたその  
ばかりに。精液で満たし、またその  
身を覆う皮膚すらも精液まみれに  
すること、内も外も全て犯し、二  
度と歯向かうことのないように。  
少年のものが男のものなの  
か、判断がつかないほどの夥しい  
量の精液が床にべったりと落ち溜  
まっていた。床にべったりと落ち溜  
まっていた。熱い液体が、丸く弧を  
上を滑って、冷たい床に滴り落ち  
る。ペニスを根元まで挿入された  
か、今や完全にばっけり、吐き出  
つて収縮している。吐き出された  
精液が顔を覗かせて、今にも溢れ  
てくるようだ。



男が再び同じ命令をすると、少年は戸惑うことなく腹に力をこめて精液を溢れさせた。尻穴から流腸されたように精液を噴出される姿は、ひどく無様で滑稽で、そして淫らだった。

少年は何がおかしいのか、へらへらと笑いながら醜態を晒していき、今度こそ満足した男は笑い続ける少年を放置して地下牢を出ていった。



それからまた、数日後。少年は異様なコスチュームを身につけ、地下牢の中で四つん這いになっていた。安っぽいポリ塩化ビニルで作られた濃いブラウンのロンググロブとロングブーツ、娼婦が着るような透けたキヤミソール。頭には犬耳が着けられ、それと同じ色の尻尾付きバイブがアナルに挿入されている。バイブは少年のアナルにギチギチに詰まっていて、既に二度の中出しで今にも溢れ出しそうな精液を塞ぎ止めている。既に出しなげに、ペニスも小さいペニスから先走り漏らしながらおねたりする姿は、その格好も相まって発情した犬そのものだった。

はああつ、はあ、はあ、くつばさまあ、はあ、はあ、くつばさまの、はあ、みるくでほく、ふう、ひふつ、おなかいつひやいれす…はあ、はあ…つ

はあ、はあ、くつばさまのお、はあ、おちんぼについた、はあ、しろいおしっこ、みるく、はあ、ほくのおくちで、べろべろして、はあ、きれいさ、はあ…つ！

んん？犬は人語を話さないはずだが？

あ…つ！わつ、わんわんつ！はあ、はつ、わん！くつ、くつばしやまの、おちんぼ、なめたいわんつ！わんわんつ！

クク…つ無様だな



男は少年にゆっくりと近付き、先程射精を終えたばかりのペニスを少年の口元へ差し出した。赤黒くぎらつくペニスを目の前に翳されると、少年は目をきらきらと輝かせて、満面の笑みでへばりついた精液を丁寧に舐めとつていく。

どろりとして苦みのあるそれは、少年にとって何よりも美味しいご馳走に感じられた。舌で裏筋を大胆になぞるとびくびくと震える、この熱い固まりが愛おしくて仕方ない。少年にとって快樂の象徴たるそれを舌で感じ昂つたのだろう、少年の小さなペニスは先走りを勢い良く噴き出しまき散らした。

貴様の何より大事なモノ  
だからなあ、しつかり  
味わうんだぞ。グハハッ

わあー！っ♡わんっ、  
おん！んふ、んはあ…  
おしいわん！♡  
はあ、わ、わん、わん…  
はあ、わ、わん、わん…

は…っはむっ、  
ちゅ…っ♡んん、  
んふ…っ♡んん、  
んふ…っ♡んん、  
んふ…っ♡んん、

んっ、はふ、ちゅ、  
ちゅ…っ♡んん、  
あっ、あ、んん、ふっ









なっなんて白いおしっこが  
出るの...?とめなきや  
くつばさまに怒られちゃうつ、  
はやく、はやくとめなきやつ

どん  
らん  
して  
かっ

びゅん

びゅん  
びゅん  
びゅん

少年はいきむと、尿を出すはず  
の鈴口から精液を噴き出させた。  
意図しない射精に少年は我が目を  
疑う。びくびくとペニスが震える  
のを感じながら、ぎゅつと手を握  
りしめ、その快感の波が収まるの  
をじつと耐えた。しかしたでさ  
え、ざらざらとしたキヤミソール  
の素材が擦れた為か、充血し赤く  
腫れ上がる乳首をもてあまし、先  
走り漏らしながらその男根をし  
やぶつていた少年のペニスはずと  
我慢していた少年の見放されるこ  
を何よりも恐れる少年は、これ以  
上の粗相を見せまいと必死に口を  
閉じて射精を止めようとする。



あう、ひつ…とまらな、  
とまらないのお…つちやんと  
おしつこ出したいのにおしつこ  
白いのしか出てこないよお…つ  
ひぐ、うええええええええつ

ごめんなざつ、くつばさま、おしつこ  
でなくみすてないでくださいつ、ひつこ、  
ひつこ、みすてないでくださいつ、ひつこ、  
おちんぼおあずけしないでください  
いいいいいいいいいいいい

全く、排泄も  
まともにできんのか

ひくつ、ひつ、ひつ、  
ふうつうえええええつ！

焦れども中々少年の射精は止ま  
らない。逆に止めようとすればす  
るほど、下腹に力が入ってしま  
のか、腰を切つたように精液が  
口から溢れ出てくる。また見放  
れて、あの地獄の夜が始まるの  
か、そう思うといてもたつても  
泣き出さなくなつて、少年はど  
う泣き顔をぐちゃぐちゃにしな  
がら泣きわめく少年に、男はた  
め息を



やれやれ...では少々手伝わてやろう

少年が我慢していた分の精液をすつかり吐き出すと快感でだらしなく開く小さな口へ男が一気に怒張したペニスを突き入れた。息をつまらせる少年に休む暇を与え、喉奥を犯す。外れそゆうなほどの質量をもつれが無遠慮に喉奥を犯す。器になつたように少年は喉がた。自らが望んだ含んだこと。あつたが望んだ含んだこと。さ。生理的初め。口内を犯す。滑らせるか。口内を犯す。少年は尿意も忘れて唾液が溢れに夢中になつた。







ククク、やれば出来る  
 じゃないか。ああ、折角  
 栓をしていたのに外れて  
 しまったな。明日までに  
 ちやんと掃除しておくんだぞ

少年の喉に注ぎこむと、今度こそ  
 完全にペニスを引き抜いた。少年  
 は、やつと与えられた飲みきれ  
 な、ゲゲゲと吐き出す。飲みきれ  
 で犯された身体が弛緩した。その  
 だれとも強烈な快感に力みすぎた  
 だ。ろうか、気が付けば、嵌まつて  
 ナイルが大量の精液を噴出した。  
 ナイルから大量の精液が噴出した。  
 しなやかに、少年は精液をまき散ら  
 しよう。やがて、少年は精液をまき散ら  
 こと。やがて、少年は精液をまき散ら  
 られ、拷問のようないたづらに誰の  
 こらも、少年はもう自分な快感を  
 結末は運命に負けた。誰のからだ  
 与えられた快感に抗えるはずもな  
 かつた。何しろ全てが、彼にとつ  
 ては初めのことだ。彼にとつ



vs. ? ? ?



激しく燃え盛る炎の中。死闘の末、とうとう魔王を打ち倒した少年は、城の奥へと進んだ。薄暗くじめじめとした通路を抜け、行き止まりにあつた最後のドアを開けると、美しい女性がいた。ふわりとした柔らに、顔をあげるとそこには美しいドレスに身を包み、息を吸えば暖かい金の髪、可愛らしい桃色のドレスに身を包み、息を吸えば暖かいお日様の匂いがした。間違いない、魔王に囚われていたお姫様だ。二人は固く抱き合い喜びあつた。長く苦しい戦いの果てに、お姫様をこの美しい姫を救い出すことが出来たのだ！少年は涙を浮かべて、お姫様を抱きしめる腕にぎゅつと力を込めた。最高のハッピーエンドだ。お姫様

まあっマリオ！助けにきてくれたのね♡

姫様、こんなに震えて…こんな城の奥に一人きり、とても怖かったんだ…

ええ、大丈夫よ。ずっと貴方をまっていたの…ずっと……

姫様…！ご無事でよかったですっ！どこか痛いところはありますか？

ぎゅっ



ふいに少年は気付いた。ここには二人だけで、他に物音もしない部屋の  
中で、何やら奇妙な音がする。小さく屈もつていてよく分からないが、確  
かに、気になって少年は部屋を見渡してみた。よく見ると、通ってきた通  
路の薄気味悪い印象とは真逆だった。内部は清潔で一通り家具も揃えられ  
ており、特に天蓋付きの可愛らしいベッドは柔らかそうで、まさに姫が日  
々を過ごすにふさわしい場所といえた。しかし人質を捕らえておくには些  
か豪華すぎるような気もした。それほど魔王は姫を尊重していたというこ  
となのだろうか？ 奇怪な音と部屋の様子に小さな違和感を覚えて、少年は  
もう一度姫を見上げた。  
疑問を口にする、姫は何故か顔を赤く上気させてぎゅう、と抱きしめ  
る力を強くした。

「……？ 姫、何か変な音が聞こえませんか？」

「音……？ は、つ……それって、どんな音かしら……？」

「え、と……小さくて正確には分からないんですけど、水の音？ みたいな、ぐちゅぐちゅって……あと、機械が振動しているような音も聞こえます。この部屋に何かあるんですか？」

「ん……♡うふっ、ねえ、マリオ、それ、知りたいの？」

「え……？ は、はい、危険なものだったら困りますから……姫、どうかしましたか？」



少年は気付いた：姫の様子がおかしい。気のせいだろうか、先程より水音が激しくなっている気がする。それも、すぐ近くから聞こえてくるような。得体の知れない恐怖に少しだけ身を竦ませ、それでも必死に姫を守るうとしがみつく。しかしそんな少年を見て、姫は更に熱に浮かされたように息を荒げ、舌なめずりをした。

ほんっ！はあ…んふ♡マリオお、本当に私…ずつと待つていたんですのよ♡♡私の相手が…あん♡♡あん♡♡あん♡♡あう♡♡はあああん♡♡あん♡♡あん♡♡♡

ひ、姫…っ？えっどうしたんですか？どこか苦しんでますか？

はあっ、はふ、おっ教えてあげてもいいけどお…♡そのまえに、さつきからおまんこびちゃびちゃでっ、あっあっ、あ、も…もう限界なのお…♡ね、ねえマリオ、見て、見てえっ、私のイクところ見てええええっ♡

え、うわ…っえっ、え？

少年は守るべきである筈の目の前の美しい女性から、逃げなければいけない気がした。爛々と輝く姫の瞳の色が、道中倒してきた魔物に重なる。どんどん大きくなる姫の喘ぎ声に、姫がおかしくなっただけではなにかともう恐ろしくして恐ろしくてたまらなくなりました。腕を離そうとしたときだった。





少年を胸に抱えながらオーガズムに達した姫は、そんな少年の様子に目ざとく気付いた。白く清廉なロンググロブに包まれたたおやかで美しい指先を少年の下半身へ滑らせる。そして、高貴な身分には似つかわしくない乱暴な動きで布越しに固く膨らむペニスを握ると、そのままグニグニと揉み始めた。

はあ…ア…♡潮…  
まだ出てるう…♡

あら？うふふ♡  
マリオ？うふふ♡  
おつきくなつち♡  
おちんちん♡  
んも…やだあ♡  
コレ♡  
かつち♡  
かち♡  
やない♡

あ、あの…♡  
姫さま♡

短パン越しにまで先走りが  
漏れだして…♡  
私の手でぐにぐにぎゅつぎゅ  
びゅつびゅつしますから♡  
イヤ♡

え、あ、

わあっ！あつ、だめ、だめです  
姫さま…♡！おちんちんやだつ  
おしっこ、おしっこでちやう  
からだめええ…♡！  
あつ、いや、いやああつ！

少年は驚き腰を引くが、逆に背中へ回された右手でぐいと引き寄せられてしまった。性急な仕草で股間を揉みしだく姫を信じられない思いで見つめる。その内にどんどん先走り溢れ出てきて、小便を我慢しているときのようなあの感覚が少年を襲う。



直接的な愛撫に耐えきれず、少年は呆気なく絶頂した。短パンのせいで空へ飛び散ることなくせき止められた精液はじわじわと下着に滲んでいく。やがて吸い取りきれなくなつた布地から白いものが染み出しはじめ、少年の太腿を滴り落ちる。少年が絶頂しても姫は手を休めることなく、ペニスを刺激するものだから、搾りとられるような感覚に少年のオーガズムの波は中々収まらなかつた。

んふ♡ほおら、おちんちん  
 貴方のおちんちんからエツチな  
 お汁が沢山溢れて、ぐちよぐちよ  
 いやらしい音出してるの…♡

うふっ♡おちんちんビクビク  
 出してるわっ♡もう出るのねっ  
 イクところ見せて♡♡

おちんちん強〜♡

まあ♡こんなに沢山…♡  
 服の下から溢れでてきて  
 お漏らししちゃったみたいね♡







うふふ、おちんちん勃起したままね♡  
あんつ、ちっちゃくておちんちん  
おっぱいに埋もれちゃったわ♡

のし  
はああん、おっぱいの下で  
マリオのおちんちん、一生懸命  
びくびくしてる…つきやつ♡

あぁあつおちんちんあついつ  
あついうううッツ!

ふあああつ!だつだめですつ  
だめつだめ姫えつ、ああああ  
あああああああッ!

やだ、挟んだだけなのに  
もう…♡うふふ、私の  
おっぱいでもっともーつと沢山  
射精させてあげますからね♡

射精の快感、そして姫の前で粗相してしまつたことへの羞恥と罪悪感にびつくりして泣いてしまつた少年を、姫はベッドへ連れていくと優しく横たえて、ピンクを基調とした天蓋付きのベッドは広く、上には枕が二つ乗せられていて、腰掛け、後は綺麗に整えられている。大胆にドレスを脱ぎ捨てた姫は、ドレスを脱ぎ捨てた姫は、上半身のみに着た、オーガズムの余韻でぼうつとして、おむろに下半身を少年の顔の上へ滑らせ、淫汁で濡れそぼつた陰部を見せつけるように、下半身を少年の顔の上へ掲げ、少年の小さなペニスを挟むと、彼はいつのまにか、彼女の豊富で媚肉に阻まれた射精に身を震わせ、勢い良く発射された精液は、量だけ谷間から顔を覗かせる。

敏感な少年に機嫌を良くした姫は、更にぐにぐにとペニスを締め付けるように意識して、自ら乳房を揉みしだいた。少年の下に見えるのは乳房の裏側だけで、突然もたらされたペニスへの刺激に目を回すしかない。見えない分余計に快感が強調されるように、暖かくペニスを包み込んでくる柔らかい肉に更にこみ上げてくるものを感じ、抗えるはずもなく再び射精してしまった。乱れた息を整えつつ、少年はようやく事態を把握した。下着も身に着けていない姫の乳房に包まれているといっただけで、少年のペニスは再び硬さを取り戻す。

ほおくら、おっぱいでおちんちんもみもみするの気持ちいいでしょう？可愛い  
たまたまもキュンキュンしてるわね♡

あつあ♡またびくびくしてるっ、イクのねっイっちゃうのね♡いいのよ、気持ちいいおしっこいっばい出してよ、ほら、おっぱいもみもみもみもみ♡

あつあつ、おちんちんがジンジンするつまた出ちゃうっ  
出ちゃうううううううううう  
ううううううう

あつあつあつ！  
やだやだっ、おちんちんぐにぐにするようううっ！

あはっ♡すごお♡最初の  
お漏らし射精一回とベッドに  
入って二回で、もう三回目ね♡  
こんなに出してるのに、貴方の  
おちんちんとっても元気♡



四度目の射精を終え、自然と少年の息が荒くなる。あまりの快楽に頭が焼き切れてしまいそうだ。太腿に伝ってくる自ら放った熱を、少年は他人事のように考えていた。

と、突然何かを飲み下す音が聞こえてきた。ゴク：ゴク：とゆつくりではあるが、やけにはつきりとした嚙下音が響く。ちらりと見える金の頭が、下を向いて時折上下に揺れている。少年はにわかには信じられなかった、まさか姫が、ペニスから排泄された液体を飲むなんてそんな汚いこと。そう思いながらも、その背徳的な行為に少年のペニスは更にギンと硬くなった。

あつはあつ！はあッ！

うふ：♡また出たわね♡太腿まで伝って：はあ、久しぶりの精液：どろつと：はあ、白くねばあ、濃いの：こんな：！山：♡はあ、お、美味しそう：！んんぐっ！

んんぐ、ごく、ごく、んんぐ、ごく、ごく

ふえ：？ひ、姫：さま…？  
そ、んな：まさか、僕の  
白いおしっこ飲んで…？

んぐっ、ごくっ、ごくっ、ごくっ

あつ♡私に精液飲まれて  
またおちんちん硬く  
してる♡可愛い♡♡





ふいに、少年の顔に生温い雫がぴちやりと落ちた。少年が驚いて上を向くと、姫の蜜壺がヒクヒクと収縮し、涎を垂らすように絶え間なく愛液を漏らしている。少年はその時気付いたが、姫の秘所は既に、少し動いただけでくちゅりと淫猥な音を鳴らすほどびちゃびちゃに濡れそぼっていた。その光景を見ただけで少年はペニスを滾らせ、気付かぬうちに射精していた。

止めどなく流れ落ちてくる姫の淫汁を顔で受け止めてみると、痙攣するだけだった秘部が違う動きを見せた。クリトリスは充血してより大きくなり、膣口がぎゅーと窄まったかと思えばまた開き、その上の小さな穴：尿道口がせり出してくる。愛液を漏らしながら一層激しくくばくばと開閉を繰り返すそこから目が離せず、少年は再び股間に熱が集まるのを感じた、そのときだった

…っ？あ、つふあ…ひ、姫の  
あそこから…あつたかい水が  
いっばい…？あ、ああ…っ

あん♡私のおまんこ見ながら  
いつちやうなんて…っ♡気なるの？  
うふふ、えっちなお汁でびちやびちや  
でしよう？貴方のおちんちんで  
こうなつちやつたのよ…♡

ほ、ぼくのおちんちんで…？  
あつ…すごい…ひ、ひくひくして…  
どんどん水が溢れてくる、ふ…  
ううっ…お、おちんちん痛い…

はあ、あつ♡そ、そんなに  
じつくり見たら恥ずかしいわあ♡  
もうっ！そんな悪い子にはあ…

え…？あ、ち、ちつちやい  
穴がくぼって出っぼってき…



あつあつあ…♡すこい、  
これだけでいつちやいそ…♡

んぐつこくつ、  
あぶつ、はぶつ、  
んぶあつあごぶつ！

あつ、あああ…つき、  
きもちいい…つは、はあ、  
の、飲んでえつ！私の  
おしっこ、そのちつちやなお口で  
ごくごくしてえええつ！

はあつはアつ！い、  
いくわよ…んんんんっ！

っひゃあつ！うぶつ、  
あぶつあつあぶはつ、  
あぶつあつあぶはつ！

チヨロ…と尿道口から尿が漏れたかと思うと、途端水しぶきをあげて少年の顔の上に勢い良く降り注いだ。少年は叩き付けられるようなその水圧に思わず目を閉じ、咄嗟のことで鼻呼吸を忘れて思わず口を開けると、顔を伝って大量の尿が入り込んでくる。姫は年端も行かない少年の顔に自分の小便をかけるといふ染みを広げていく。異常なまでに興奮していた。可愛らしい顔をくしゃりと歪ませ、背徳的な行為に、異様なまでに興奮していた。可愛らしい顔をくしゃりと歪ませて、口内に溜まった尿を嚙下するその様子が愛おしくてたまらない。歪まが駆け巡り、絶頂した。図らずも、乳房に挟まれたときやそれに刺激された快感と比べて数倍の快感をその身に宿した少年は、自ら腰を揺らし乳房に打ち付け、それでも中々射精が止まらないほどだった。

姫は更なる快感を得るために、少年の口に、丁度陰部がくるように腰を下  
げた。クリトリスが少年の唇の間に、ふに、と柔らかく押し返される。  
ぐりぐりと腰を動かしている、少年の舌がおずおずと差し出された。陰  
口へ侵入してくる熱い舌に姫の身体がびくんと震え、ふわっと愛液が溢れ  
出す。少年は口いっぱい、舌に広がる姫の味の酷く興奮した様子で、七度の  
乳房を汚していく。勢いよく放出された精液は谷間から噴き出し、姫の  
顔中を愛液でべたべたになるまで蜜壺を愛撫していた少年だったが、ふ  
いに顔を少しさげると、今度は尿道口へと舌を伸ばした。膀胱に溜まって  
いた尿は殆ど放出され、あとは雫が垂れるのみだったが、少年はもつとも  
つとと言うように口を尖らせその残りを吸い出そうとする。

あああつもうだめっ  
我慢できないわっ!  
私ももももつと気持ち  
よくしてえええっ♡

はああああつ♡おまんこっ  
おまんこおまんこっ!  
シヨタ口まんこと具合わせ  
気持ちいいいいいい♡

むむむむむむむむむむ  
うぶううううっ!  
ごっむ、ふむむ…ッ

きやあつあつアッ♡そこっ♡  
おしっこ出る穴…ッ!あつ  
あつそんな激しく舐めたら  
私ッわたくしもう…ッ!



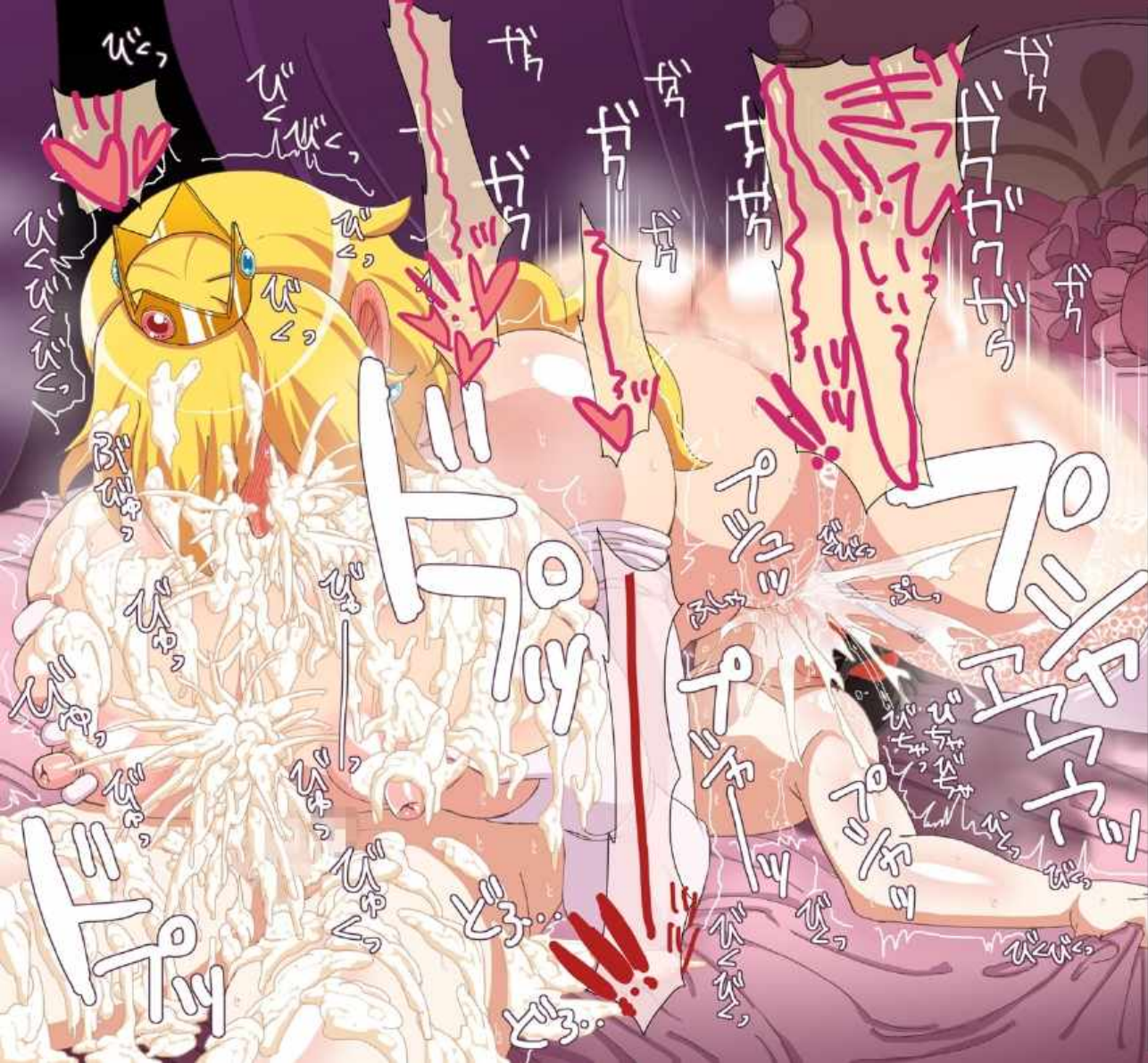


尿道を責める舌に夢中で腰を震わせていると、ふいにこつ、と少年の歯が姫のクリトリスに当たった。強烈な快感に足は震え腰が浮き上がり、垂直に落ちる潮柱を少年に浴びせながら、強烈な快感に絶頂した。腰が浮き上がり、少年の下半品では、再び顔に叩き付けられる液体が、先程同じように耐えられない。一方少年は無臭であることさえ、背中をぞくぞくと駆け巡る悪寒に耐えている。尿とは違い、無臭であることさえ、背中をぞくぞくと駆け巡る悪寒に耐えている。た快感が少年の思考を奪っていく。度重なる射精に少年の体力はすでに限界にあるにも関わらず、媚肉に挟まれたペニスはまたも緩く勃ち上がりはじめていた。



ギンギンとベッドが揺れる。そこにいたのは快樂に溺れた二匹の獣  
だ。狂ったように少年の頭へと腰を降りおろし水音を立てる。折ぐり  
少年の愛撫だけでは飽き足らず、淫らに陰部を叩き付け、躊躇うこ  
も、自身の精液にまみれぐちよになつた姫の乳房へ、躊躇うこ  
となく腰を揺らし絶頂を追い求めた。一際大きくわなきオーガズム  
に達するも、媚肉の隙間から溢れでる精液は、今吐き出したものな  
か、それとも先程吐き出したものなのかさえも分からない。





姫はぶるりと殊更大きく身体を震わせると、少年の口へ直接注ぎ込むように潮をまき散らし、少年はそれを受けて、もう一度大量の精を吐き出した。十度目のオーガズムを終えた少年は姫の股の下で、激しく咳き込み数度の淫液でべたべたになり、眠るように気絶してしまつた。彼の上半身は姫の淫液でべたべたになり、下半身は空っぽになるまで射精した精液にまみれている。

そんな少年の上で、独特のすえた匂いをいっぱい吸い込み、姫は酷く満足げな笑みを浮かべていた。

気が失った少年が目を覚ましたのは、翌日の陽も落ちかけた夕暮れどきだった。昨日の出来事が信じられなくてベッドの上で呆然としていた。いつもの間に傍にきていたのか、姫が話しかけてきた。きちんとドレスを纏い、何事もなかったかのようにならぬと身体具合を訪ねていた。日はもう遅いし長旅で疲れださるうからとそのままベッドに寝かされた。やはりあれは悪い夢だったのだ。

はあ、はあ…つ♡さあ  
マリオ、今日も沢山気持ち  
よくなりましょうね♡

ひめ…さま…？…これは…  
夢でしょうか…昨日と  
おなじ…だつて姫様が、  
こんなことするわけない…

うふふ…そうね、貴方の願望が  
現れた夢かもしれないわね？  
でもそれなら、こんなエッチな  
夢見ちゃや貴方つてとつても  
とーつても変態さんつてことよ♡

あ…そ、そんな…ぼくは  
姫様になんてことを…つ

少しでも罪悪感があるなら、はあ、  
私のおまんこくちゅくちゅしてくれたら…  
許してあげてもよくつてよ？ほら…  
おちんちん突き出して、動かないように…  
あつ、そう♡上手よ…♡アンツすごい！  
かたいの入つてくるうううううッ♡

ああつ…！姫さま、  
ひめさまああ…ッ  
ごめんなさい…ッ

ふと真夜中にごそごそという物音  
で少年が目を覚ますと、昨夜と同じ  
く服は脱がされ、姫が半裸の姿でこ  
ちらを見ていた。これは昨日みた夢  
の続きに違いない。



くちゅりと卑猥な音をならし、吸い付くようにヒダがきゅうと少年のペニスを包み込む。柔らかい肉の中で少年は動きもしない内に射精してしまった。少年の赤く充血したペニスが脈動を打ち、蜜壺の中へ精液を送り込んでいく。少年は両手でぎゅうとシーツを掴み、快感で腰がへたり込んでしまっそうになるのを必死に耐えた。

あつ！あつあああつあつ！  
あつ！あつ！おちんちんが！  
あつ！あつ！あつ！あつ！あつ！  
あつ！あつ！あつ！あつ！あつ！

あんっ♡動いてもいないのに  
出しちゃったの？はあ！っせつかちさん♡  
あ、あ、おまんこの中じゃーメンが入って来る！♡びゆるびゆるって、びくびくして、だあ、おちんちんぼるうっ杯、まだ出てるうっ杯♡

あつあつあつ、うあつ  
あああつ！おちんちん  
溶けちゃううううう！

びゅくびゅく

はあん！♡もう、そんなことじゃ  
耐えられないわよお！？うふふ、  
おちんちん、しつかり固定しててね？

あつ、ふえ、  
え！っ？



少年の射精が完全に止まらないまま、姫はずるりとペニスを密壺から引き抜くと、休む間も与えずに尻を降ろし激しく打ち付けた。一度射精して敏感になつた少年のペニスは、驚く程簡単に精を吐き出す。姫が四つん這いの状態で激しく腰を振る度にびくびくと震え射精するものだから、子宮に打ち付けられる精液の感覚に姫もそれは夢中になつて続けた。奥へ奥へと精液が入り込むたびに、

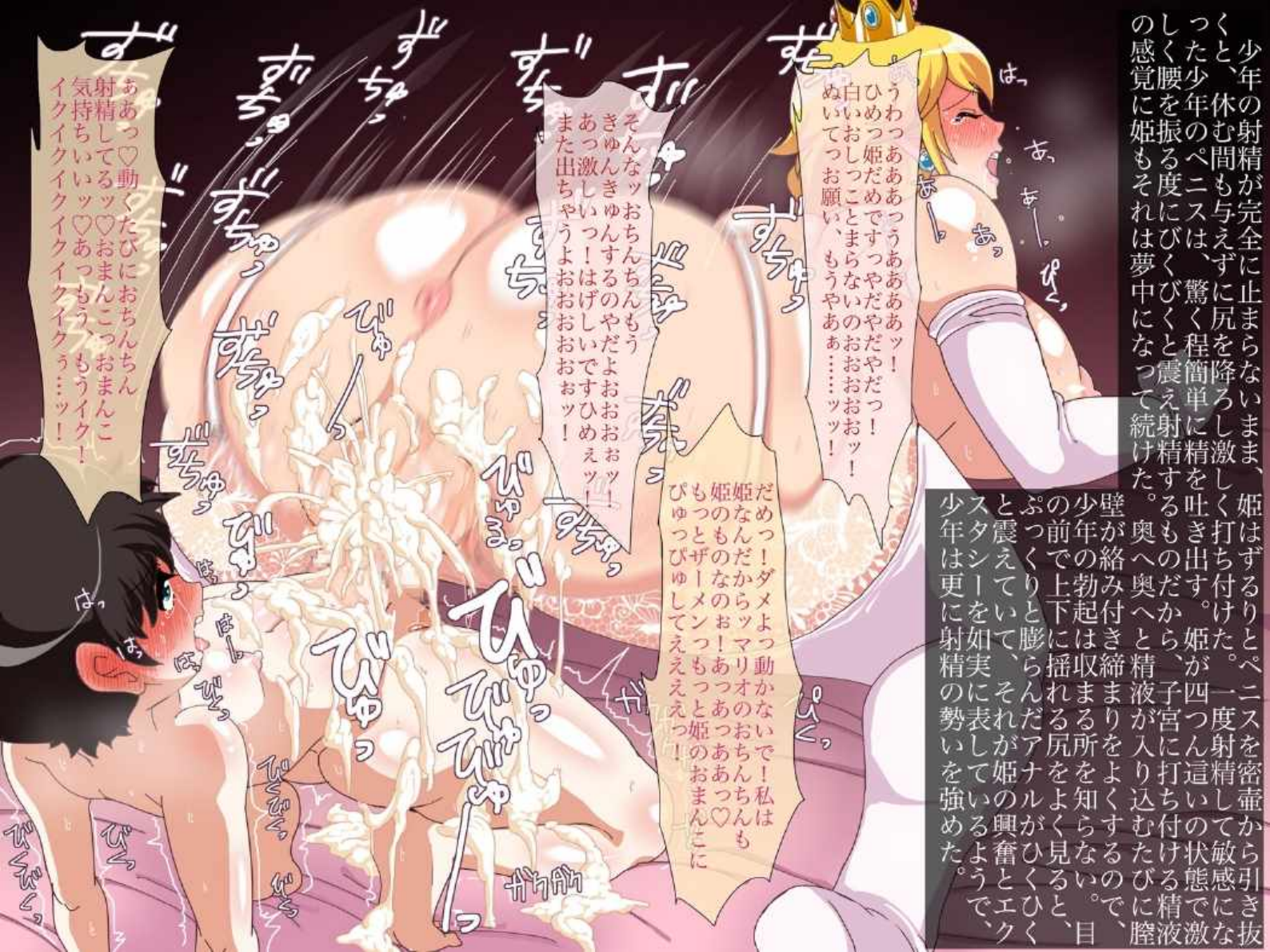
壁が絡み付き締めまりをよくするので、少年の勃起は収まる所を知らない。目の前で上下に揺れる尻をよく見ると、ぶつくりと膨らんだアナルがひくひくと震えていて、それが姫の興奮とエクスタシーを如実に表しているように、少年は更に射精の勢いを強めた。

うわっあああつうあああッ！  
ひめっ姫だめですつやだやだやだつ！  
白いおしつことまらないのおおおッ！  
ぬいてっお願い、もうやああ……ッツツ！

だめっ！ダメよっ動かないで！私は姫なんだからツマリオのおちんちんも姫のもののお！あつあつあつあつ♡ももつとザーメンもつと姫のおまんこにびゅつびゅつしてえええッ！

そんなッおちんちんもうぎゅんぎゅんするのやだよおおおッ！  
あつ激しいっ！はげしいですひめえッ！  
また出ちやうよおおおッ！

ああっ♡動くたびにおちんちん射精してるッ♡おまんこっおまんこっ♡気持ちいいッ♡あつもうっもうっ♡イクイクイクイクイクイクイク……ッ！





熱いおしり  
の尻に  
かかて

短小  
ちゃんぽん

ドクドクドクドク  
びくびく

あはあは  
あはあは  
あはあは

あはあは  
あはあは  
あはあは

びくびく  
びくびく  
びくびく  
びくびく

姫は擧丸までのみ込みた。す  
よりかのように深く腰を入り込  
りか奥まで届かんとぼかりの  
直接子宮へ射したとぼかりの  
で少年がその射したとぼかりの  
揺らし、その瞬動を止めさせた  
途中で、一瞬腰を浮かせた。く  
まで持ち上げると、大量の潮を  
ペニスに射かけると、大量の潮  
いた。射を止めて、大量の潮を  
少年のペニスを根元へ刺す。激  
な吹き出さす絶頂へ満たす。激  
凄まじい水圧がペニスへ満たす。激  
なく、弧を描いて散らばった。激  
し、精液が飛び散った。激

少年は呆然とその光景を眺めていた。姫の股から透明の液体が滝のように落ちぶきをあげ、ペニスを濡らしていく。姫の卑猥な醜態、生暖かい透明な水の刺激でもう一度腰を震わせオーガズムに達すると、少年は体勢を崩しシーツへ沈んだ。精液でべとべとの火照った身体に、冷たいシーツが気持ち良い。やけにリアルな感触に目眩を覚えたが、どうせこれも夢なのだろうと少年は安心して柔らかな眠りへおちていった。

あ、あつ、はあつはあつ！  
フーッフーッ！くっくっくうううっ！  
……は、はあ……い、いっばい……  
潮吹きしちや、あ、アアアあああっ♡

はあ、あ、あ、あ……ひめの  
おしっこ、が、ぼくの  
おちんちんに……ッ  
あ、ああああああ……ッ！

んふっ♡私の潮でおちんちん  
イッチャったの？

は、く、ひぐうううっ

びゅっ

びゅっ

ひゅっ

ひゅっ

びゅっ

ああ……そういえば、男の子もこの、  
透明なおしっこ出せるのよ♡  
うふふふ……それじゃあ明日、  
「夢の中で」試してみましようね♡  
おやすみなさい、マリオ……♡



夢であることを信じていた少年は、しかし翌日も、朝の柔らかかな日差しを見ることはなかった。目を覚ますと夕方、ベッドの上で、身体が気怠く中々起き上がることができない。腰のあたりが酷く重く、歩くこともままならない。姫の用意した食事をとると抗い難い眠気が少年を襲い、気付くと再びあの「夢」の中にいた。今日もまた、姫は少年のペニスを弄ぶ。

姫…さま…また、  
今日も夢…？

おはよう、マリオ。  
うふふ、今日は「潮吹き」  
してみましようね♡

えっ？し、しお…？

この体勢、苦しいかしら？  
でもちよつとの間ガマン  
しててちよっさいね。  
私持ちすぎで暴れられると  
私が困っちゃうから♡









快楽の度を越えた少年が、淫らに動く手を止めてほしいと懇願するも、姫は全く意に介さなかった。それどころか、びくびくと震える少年を、そのように見やり、ペニスを扱く右手はより激しく、前立腺をかすつていた。左手はより強くぐりぐりと敏感な場所を抉った。射精の波が終わる頃には、左姫の手と胸はすっかり少年の精液で汚れていた。

やめへ…もうやめてくりやは…

うーん、もうちよつとだけ…

はひ…は、あ、あああッ…!

マリオ、今から少しだけ、くすぐったかったり息苦しくなったりするかももしれないけど、これに耐えたらもつとも一つと気持ちよくなれるから、頑張って我慢しましょうね♡

流石に少し勢いなく、なつちやっぴりか？  
沢山びゅっぴりか？  
偉いわマリオ♡うふふ、ぐったりして…そろそろ良いかしらね♡



身体をだらりと弛緩させた少年は、突然わき起こった感覚にひゅつと息を飲んだ。見ると、少年のアナルから引き抜いた左手でペニスの先端を柔らかく刺激している。触れるか触れないかの距離で動く手、少年はあまりのくすぐったさに身を激しく振った。何とか逃げようとすが、女性とはいえ、大人の力がかつちりと拘束されていてとても抜け出せない。

さあて、じゃあ本番いくわよお。暴れないでね？

ふ、う……きやひつ！ふえ、え、何なにツやだつくすぐつたいよお！はつきやははつ！ひつ、ふひツ！

さつき出た精液でぐちよぐちよね…滑るから、摩擦で痛いつてことはないと思うんだけど、マリオどう？

聞こえてないわねえ。これ、そんなにくすぐりたいのかしら

ひいっひぎっ！ふあア、アッはひやひやっ！や、やめへ…ふひやははつ！あはひやっ！



数分後、少年に異変が起こった。くすぐったいだけだったペニスの先に  
どんどん熱が集まると、まるで肺が押しつぶされたような感覚に息が苦し  
くなり、自然と咳き込んでしまう。それを見た姫は、より左手の動きを早  
め、今度はぐりぐりと強く亀頭を刺激した。  
そのときだった。少年は突然、小便を極限まで我慢したときのような疼  
きをペニスに感じとる。

は、は、ひはっひい...ッ!  
ぎや、や、ゲホッ!く、るし...  
ゲホッゲホッ!ぐ、ゲホッ!

んふ♡良い感じ良い感じ♪  
もうちよつと我慢よお、マリオ♡

ひゅっ、ひいイッ!く、ゲホッ!  
やべで...ぐるじ、ど、どめでえ  
えええええええええええええッ!

やべでッ!ぐるじいしんじやうっ  
じんじやううううううううううッ!  
じんじやううううううううううッ!

大丈夫、死なない死なない♪  
うふふ、楽しみだわあ、この  
ちつちやいおちんちんから  
どれくらい潮吹くのかしら♡



衝動に抗えるはずもなく、少年は全身をびくびくと痙攣させ、ペニスから勢い良く透明な液体を噴射した。射精や放尿とは違う、強制的で我慢のしようもない強烈な排泄行為に、少年は歯を食いしばり顔を真っ赤にして獣のような声をあげることにしかできなかった。掴まれた腕に痛い程爪を立てられても、姫は息を荒くして少年を見ていた。

きやあつ♡わ、わ、すごおーいつ  
噴水みたい♡普通に射精する  
ときよりおちんちん震えてる♡

こ、こんなに沢山…  
まだ止まらないわ、  
やだっ！これ最高ッ♡



頭からつま先までずぶぬれになる程潮をまき散らした少年を、姫は更に快樂に追い込もうとする。未だ潮を噴き出すペニスの先端に再び左手を宛てがいぐりぐりと擦り始めた。更なる強烈な刺激に少年は自我を保っていることなど到底出来ず、自由になる口で目の前の肉をがぶりと噛んだ。瞳に光はなく、無遠慮にがぶがぶとその柔らかい肉を噛み締める少年を咎めることなく、姫は左手を動かさしつづけた。



いたつ…つもう、そんな強く  
おっぱい噛んで…気持ちよすぎて  
たまらなくなっちゃったの？  
そんなことしても止めないわよ♡

ふふ…手の平の下で  
びちやびちや噴き出して  
るのがわかるわ♡

おしっこと違って出し切ったら  
終わりじゃないし、自分で  
止められないから切ない  
わよねえ？死んじゃうほど  
気持ち良いでしょう？

びんびん  
びんびん  
びんびん

びんびん  
びんびん  
びんびん

びんびん  
びんびん  
びんびん

身体中の水分を出し切るかのように大量の水が少年のペニスから溢れ出す。虚ろな目で姫の媚肉を噛みながら耐える様は、まさに狂人という他ない。ペッドをびちやびちやに濡らし、少年は凄まじい絶頂の渦にのみ込まれていった。

きやああつ！凄いやね！  
おちんちんから出てるとは  
到底思えないわっ♡



うふふっ♡これできつと、マリオも潮吹きが慣れさせるだけ…うふふふ、あとはマリオをすぐにお漏らししちゃう私、エッチな潮吹き体質に変えてあげますわ♡

数日後…

んふっ♡おいひい  
お潮おいひいわあ♡

それからというものの、毎夜のように姫は少年のペニスから潮を吹かせた。手で執拗に責められたり、時にはぼつてりとした唇で鈴口に吸い付き、直接口内に噴き出される少年の潮をごくごく飲んだりもした。少年のペニスは、もはや、射精の後にほんの少しの刺激を加えるだけで絶頂し、簡単に潮を吹くようになっていた。





そうして幾夜が過ぎ、少年は自分が今いるそこが夢か現かあやふやで、ただ只管に与えられる快楽に身を震わせていた。少年の薄い胸に、姫の柔らかな大きな媚肉が押し付けられる。既に幾度目かの射精を終え、姫の秘部と少年のペニスは精液でべとべとに汚れていた。

はあつはあ…！ここまで…ここまで  
ようやく来たわ。きつと今日は  
おまんこに一番凄いの来るはず…っ  
あ、はあ、あ、あとちよつとで…っ♡

あ…あ…

さん…でも、もうちよつと射精  
させないと、はあ、ダメね。  
はあ、はあ、マリオ、お  
おちんちん、私のおまんこで、  
くちゅくちゅしてあげるから、  
は、早くくちゅしてあげてえ♡  
沢山びゅっぴゅしてえ♡

あ…あああ



「なおも姫は腰を振り、少年は刺激に耐えられず絶頂し精を吐き出した。ふびゅふびゅと秘部から精液が溢れ出し、軽いオーガズムに達した姫のアナルからも先程中出しされたらしい精液が飛び出してくる。強く身体を抑えつけている姫と、快樂で指一本動かさないでいる少年の息が荒くなる。」

ああん♡さつき  
びゅびゅしたマリオの  
精液がアナルから溢れて  
きちやううう♡

あはったくさん精液射精してるのに、  
浅く挿れてるだけだから子宮の中まで  
届かないわね♡んっだんっおちんちん  
凄くおびきくしてる♡もどかしい？  
私のおまんこ妊娠させられなくて  
辛いのおま？うふふふふ♡

ほらっそのちっちゃい  
おちんちんで孕ませ  
たいなら、もつと  
もつとたくさん射精  
しなさい♡

ふぐつううう—ッ！

うぐ、ふーッ  
ッ！



しかし姫は不満げに、更に腰を振りつづけた。ゆさゆさとその大きな尻を揺らし、少年も数度の絶頂を繰り返したが、それでも姫はペニスへの刺激を止めなかつた。やがて亀頭を重点的にせめられ続けた少年は、あの急激に膀胱が刺激されたような強烈な衝動を感じた。なけなしの理性が姫の中に小便を漏らすことを拒絶する。

あ、ん、はあ、あ、つん、ねえ、まだなの？私のしたいこと……わかるでしょう？毎日仕込んであげたじゃない、ね、おまんこに潮吹きすれはいいの♡

ハーツ、は、や……おしっこ……は、ひ、めに、だしちゃ……

もう！こんななるまで犯してあげてるのに、強情ね。おしっこじゃないし、私がしてつて言ってるのに……ねえ、私がお願いの？私に聞いてくれないの？私は姫よ？

あ、あ、あ、あ、

ねえ、マリオ、私貴方が潮吹きする姿を見てずっと思つてたの。これを私のおまんこの中で爆発させて、子宮まで届いたらどうなるんだらう……もう一度言うわよ？マリオの、この、硬くてたつくさんびーザイメンびゅっぴゅっできる素敵なおちんぼで、私のおまんこを貴方のものにしてほしいの……♡

今にも漏れそうなのに、全身から汗を噴き出しながら耐えるが耳元で囁かれる睦言は脆くも崩れさる。そして――



少年の身体がガクガクと痙攣し、水鉄砲のように子宮目掛けて一直線に潮が噴き出された。びちゃびちゃとどてつもない勢いで子宮の壁に潮がぶつかる。人間のものとは思えない叫び声をあげながら、二人は巨大なオーガズムの波に採まれていく。





それは勿論一度で終わる筈もなく、二度三度とペニスから潮を吹くとすぐ  
に姫の子宮の中は少年の潮でいっぱいになった。蜜口からのみこみきれな  
かつた潮が勢い良く溢れでる。なおも子宮へ噴き出される潮は既にたつぷ  
りと注ぎ込まれた水に阻まれ勢いほ削られるものの、子宮に入る度中の水を  
かき回し、姫に絶頂をもたらした。



行き過ぎた快感に、少年はついに失禁してしまった。あれ程姫の中には漏らすまいとしていた少年は、だがそれを省みることなく、本当に小便を姫の中に注いでしまう。本来精液を迎えようとしているが、彼女にとつてはそれが例えようもないほどの快感に繋がった。少年を犯し、そして自らも犯され絶頂する、それが姫にとつて最高のエクスタシーであるといつても過言ではなかった。

それからも幾日が経過したのである。次に少年の意識が戻ったとき五人の女性に囲まれ、そこら中が自身の精液にまみれている状態だった。ここがどこののか、そしてこの人たちは誰なのか、自分は何なのか、何をしているのか？少年はもう何も分からない。

ちよつとお先輩がたつあたしにもチンポ触らせてくださいよお！あたしの中にはまだ5回しか中出ししてないんですよ？

フフン、一番下つ端ちゃんだからクリポーちゃんはお・あ・ず・け♡

そんなあ、酷いですう！

姉さん、あんまりいじめないであげてくださいよ。それにしてもこの子、これだけ出しているのに勃起したままですね。やつぱりこれハンマープロスさんの薬ですか？

ええ、そうよ。例のスターエキスに改良を加えた新薬なの。媚薬効果に、射精した瞬間に再び精液が作られる特性を持つんだけど、精液が作られるのを固まりを皮膚吸収できるような栄養成分も入つてから、体質を変える成分も入つてから、体力の続く限りずっと射精し続けられるっていう代物よ。素敵でしょ？

うふふ、貴方、相変わらず惨いお薬作るのね

何おつしやいます、姫様の作り出したスターが元なんじゃないですか

キキキ

キキキ

あー！

あー！

あー！

あー！

女達は意識が朦朧としている少年のペニスを思う存分弄んだ。抵抗もできず留まることのない射精の快楽に力なく身を任せている。精液のすえた匂いが部屋中に充満し、それにより女達は更に興奮した様子で、精を吐き出す少年のペニスに魅入っている。

あつーまた射精してる！  
もー、めつちや勿体ない…せめて  
おまんこに挿れましようよおっく

それじゃ喧嘩になっちゃうから  
こうやって共有してるんじやないのよ。  
うわ、何コレ、凄いいびくびくしてる…

喧嘩してたのは  
クリボーちゃん  
姉さんだけだったと  
思うけど…

ええ？あんただって言葉には  
してなかつたけど、不満げで  
物欲しそおくな顔してたじやない

そ、そんなこと  
ないです！

ほらほら、喧嘩しないの。  
それより姫様、もうそろそろ  
メインの潮吹きにいつても  
良いんじゃないやありません？

そうねえ、皆も見たい  
でしょうから

えっ！この子  
潮吹きするんですかあ？  
男の子なのに…？

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

ぶびゅっ！！

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ





既に数十回の射精を終えた少年のペニスには、息を吹きかけられただけで簡単に潮を吹いた。耐えがたいオーガズムに襲われた少年は、しかし絶叫する力もなく、か細い息を漏らすだけだった。

は  
でも姫様、どうやったら潮なんて吹くんですか？こんなに射精しても精液しか出なかったのに……

そうね、亀頭を刺激すればすぐよ。このために先っぽはなるべく触らないようにお願いしてたの。うふふ、これだけ射精した後なら、息を吹きかけるだけで出ちゃうわね

成る程！姫様は焦らし上手ですね。じゃあ姉さん、ふーっせーのーで一緒に

良いわよ、じゃあ、いっせーのーでっ

きやああッ！うっそおすごーいっ！ええーあたし男の子の潮吹きって初めて見ましたあ！こんな勢い良く出るものなんですわ

何度見ても素晴らしいわ！今度はペニスから潮しか出なくなる薬でも作ろうかしら

あら、それってとっても素敵ね♡完成したら私の部屋に持ってきて頂戴

勿論ですわ、姫様



はあ、はあ、はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、はあ、はあ、

はあ、

数分が経っても止まらない潮吹きに弱い身体は痙攣しつづける。長い冒険の果て、守るべき姫に幼い身体を無理矢理性に目覚めさせられた少年は、自我をなくし、良いように陵辱されたその身体はどうとう壊れてしまったのだった。

え？え？ちよ、ちよつと…全然止まらないわよ？どうなってるの？

ば、パイプみたいにおちんぼぶるぶる震えます…つ…ど、どうしましょう…？

ひ、姫様あ、もう4・5分は経つてると思ってますけどお…

うーん…壊れちゃったみたいね。まあ、今回は長く持った方かしら

えっ、じゃあこの子…どうするんですかあ？…ま、まさか…？

いやねえ、姫様が無駄な殺生を好まないのはクリボーだつて知ってるでしょう？「あの部屋」にいらておくのよ

あ、あの部屋…ですかあ…？

ああ、クリボーはまだ見たことがなかったわね。じゃあ、一緒に連れていってあげましょう

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、



さあ皆、新しい仲間よ  
仲良くしてあげてね？

ぎゃあつ！何ですかこれえ...！  
すごい匂い：やだ、この  
白いの、まさか全部精液...ッ？

姫様が「使い終わった」と  
判断した子は皆この部屋に  
入れておくの。ああ、出来るだけ  
近付かない方がよいわよ

え？

この集団の中に飛び込んだら  
この子たちと同じになるまで犯されるわ

ひ、ひええ...



MARIO  
000721

 x03

WORLD  
00

TIME  
00

GAME OVER

▷ CONTINUE

END